

第9回 むのたけじ反戦塾 手元資料



憲法9条こそが人類に希望をもたらす (むのたけじさん最後の演説要旨)

私はジャーナリストとして、戦争を国内でも海外でも経験した。相手を殺さなければ、こちらが死んでしまう。本能に導かれるように道徳観が崩れる。だから戦争があると、女性に乱暴したりものを盗んだり、証拠をけすために火をつけたりする。これが戦場で戦う兵士の姿だ。

こういう戦争によって社会の正義が実現できるか。人間の幸福は実現できるか。

戦争はけて許されない。それを私たち古い世代は許してしまった。新聞の仕事に携わって真実を国民に伝えて、道を正すべき人間が何百人いても何もできなかった。戦争を始めてしまったら止めようがない。

ぶざまな戦争をやって残ったのが憲法九条。
九条こそが人類に希望をもたらすと受け止めた。そして七十年間、国民の誰も戦死させず、国民の誰も戦死させなかった。これが古い世代にできた精いっぱいのことだ。道は間違っていない。

国連に加盟している何処のクニの憲法にも憲法九条と同じ条文はない。日本だけが故事のようにあの文章を掲げている。

必ず実現する。この会場の光景をご覧ください。若いエネルギーが燃え上がっている。至る所に女性たちが立ち上がっている。新しい歴史が大地から動き始めた。

戦争を殺さなければ、現代の人類は死ぬ資格がない。この覚悟をもってとことん頑張りましょう。

第9回 むのたけじ反戦塾

日時：2024年8月17日（土）
13:30～17:00

会場：文京区民センター2A会議室
(地下鉄春日駅2分・後樂園駅5分)

プログラム：

- ① 映像上映「2016年憲法有明集会でのむのたけじさん反戦の訴え」(10分)
TV番組「まだ101歳 むのたけじ—戦争を殺す日まで」(25分)
- ② 報告と提案：今こそ、むのたけじの反戦とは。戦争はいらぬ、戦争をさせぬ世へ
・むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』を手がかりに
・「むのたけじ反戦塾」これまでの8回の話し合いをもとに
Q：今、私たちを取り巻く戦争の危険とは
Q：戦争をさせぬために何が出来るか？
- ③ 参加者、それぞれが今考えていること、問題としていることの出し合い・話し合い

【この手元資料の内容】

- 資料① 第9回 むのたけじ反戦塾のよびかけ P.2
- 資料② 第9回 反戦塾へ・反戦塾のこれから P.3
- 資料③ 第8回むのたけじ反戦塾(2024年6月15日)の記録 P.4～12
- 資料④ 参考資料：数戸弾薬庫反対チラシ P.13～14
- 資料⑤ 参考資料：まかり通る基地の又貸し(半田滋の新・安全保障論) P.15
- 資料⑥ 論考 沖縄問題を考える P.16
- 資料⑦ 「むのたけじ反戦塾」のこれまで P.17
- 資料⑧ 『希望は絶望のど真ん中に』結章「足元から世界を耕す」(後半) P.20～18(左開き・裏表紙から)

資料① 第9回 むのたけじ反戦塾のよびかけ

日頃 生前むのたけじの活動にご理解いただき、没後も多くの活動にご協力していただきましてありがとうございます。

さて、私たちは、むのたけじの提唱した「戦争のいらぬ やらぬ世に」にするにはどうすれば良いかを中心に、毎回参加者はそう多くはないのですが、イベント3回と2022年12月18日より8回の「むのたけじ反戦塾」を開き、議論を重ねてきました。そうすることで、むのたけじの思いを次の世代に繋げていく活動をしております。

8月17日にその第9回の会が開催を予定しています。

今回はむのたけじの命日である8月21日に近いことあることと、第2次安倍政権による「集団的自衛権容認」以降南西諸島のミサイル基地化など軍備増強が目立ち、むのたけじが求めた世界とは違う方向に向かっている危機感を持っています。そこで、平穏な生活は武力では得られない、よその国から侵略されないようにするには話し合いを重ねるなどの外交努力が特に重要で、しかも私たちが戦争を嫌っていることを日頃主張することの大切さを多くの皆さんに知ってもらえるような会にしたいと考えています。そこで、報告というコーナーを加えたプログラムを計画しました。こうした活動を知ってもらうことと、もしできましたら、次に述べますいくつかお願いにご協力してもらえると幸いです。

【プログラム案】

日時：2024年8月17日（土）

会場：文京区民センター2A会議室（地下鉄春日駅2分）

13：30～14：10 ①本日の話し合いの趣旨説明

②映像上映「2016年憲法有明集会でのむのたけじさん反戦の訴え」（10分）

TV番組「まだ101歳むのたけじー戦争を殺す日まで」（25分）

14：10～15：50 ③報告「むのたけじの反戦」「今そこにある戦争の危険の認識」「では、私たちは何が出来るか」「現在の状況についての思い」（一人10～15分で10人位の報告＝1時間40分）

15：50～16：50 ④ ②～③をもとにディスカッション

そこで、「第9回むのたけじ反戦塾」に来て話していただく、とても嬉しいです。

ただし暑いおりですので、メールないし手紙でのコメント送付も歓迎します。

とりわけ、むのたけじが晩年（とくに2020年代、第2次安倍政権の憲法破壊の暴挙と「戦争する国づくり」に対して）どのような戦争反対の発言や行動をしてきたかを知っている人たちにもう一度当時を思い出して、教えていただきたいのです。

・むのたけじさんは、どのように、戦争への道を止めようと発言・行動してきたのか？

・自分自身が今感じている「戦争の危険」はどのようなことか？より具体的に。

・「戦争の危険」をより多くの人に伝える方法に、どのようなものがあるか？何が出来るか？についての3点です。



これらのことについてこれまでの8回の「反戦塾」の中で話されたことも含めまとめて、整理したいと思っているからです。そうして、いまの「戦争の危険」をより多くの人々に、分かりやすく、反戦の気持ちを込めて伝え、知らせていけるようにしたいと考えています。

なお、ご参加いただける時は準備の都合もありますので下記のメールアドレスまでお知らせ願います。また、コメントいただける場合もこちらに願います。

dmuno@jcom.home.ne.jp

8月吉日

武野大策 花崎 哲



「テレメンタリー2016 まだ101歳むのたけじ戦争を殺す日まで」 テレビ朝日系列2016年6月

ジャーナリスト・むのたけじ氏は今年1月、101歳を迎えた。むの氏は戦時中、従軍記者として戦争を経験。「自分が書いてきた戦争の記事に責任を感じたから」と敗戦の日に勤めていた新聞社を退社。戦後は、執筆や講演活動等において反戦平和の姿勢を固い決意で貫いている。むの氏は、「戦争を殺さなければ、人類は死ぬ資格がない」と訴える。100歳を超えてなお現役のジャーナリスト、むの氏の発言を「今、伝えるべき言葉」として記録する。

資料② 第9回 反戦塾へ・反戦塾のこれから

第9回反戦塾に寄せて

この反戦塾の冠にしているむのたけじが亡くなったのは2016年8月21日です。ことしが8年目になります。そんな月日経っても、こうして集まって学び合うことができていることをとてもありがたく思っています。また、反戦塾の方も今回で9回目を迎え、毎回有意義な議論がされ、私もいろいろなことが学ばせてもらっていることを喜ばしく思っています。

この間ほぼ時期を一緒にして活動してきたのが、2016年4月から7699名の原告1685人の代理人弁護士が全国22の裁判所で25の裁判提訴した安保法制違憲訴訟の活動です。安倍政権により変えられた日本の安全保障関係を正そうとした闘いです。そのほとんどのところで上告棄却の決定書が届き、裁判的には終了しています。そうした状況の中でその一つの区切りとなる集まりが7月10日にありました。午前中に全国から安保法制違憲訴訟を闘う仲間が最高裁前に集まり、その内17名が最高裁に上告、係争中の北海道道東・斎藤弁護士作成した、わかる判決を知ってくれという要請文を所内に入り書記官に手渡しし、残りは街宣行動を行った。午後からは安保法制違憲訴訟全国ネットワークと戦争させない・9条壊すな！総がかり実行委員会の共催で市民集会「とりもどそう 立憲主義と平和憲法」が参議院議員会館講堂で開催された。午前中は5-80人くらいで、午後は350人とか言っていました。この安保法制に反対するために一時期国会を囲むだけの人が集まったことを考えると何か寂しさが込み上げる。

さて、むのたけじから、ものごとを見る時は必ず過去、現在、未来の歴史のつながりのなかで見ることの大切さを教えられました。安保法制は、2014年7月1日の集団的自衛権を第2次安倍内閣が容認したことからはじまり、それが具体化するための法制化が安保法制になります。こうした動きに戦争につながるものとして、むのたけじも最後の2年間反対運動をしていました。また、この法案は憲法に違反するものとして、先に述べたような法廷闘争になったことはご存知の通りです。こうした一連の動きは少し長い目で見れば、現在にあたるころになると思います。その現在をさらに細かく見ると、南西諸島のミサイル配備、米軍との共同訓練などをみると、むのたけじの言葉によれば米軍の弾除けにされない状況に見える。つまり、集団的自衛権容認は、日本の防衛力強化に当たらず、米軍に使いやすい状況を作っただけのようにしか見えない。

そこで、日本の安全保障環境の過去にあたるころを見てみよう。戦後日本は安倍政権の集団的自衛権容認をする前は、15年戦争の反省に立ち、日米安全保障条約の陰に隠れてという状況であったが、憲法9条の戦争放棄を盾にして曲がりなりにも日本は戦争に加担せずやってきました。その中で経済生活向上を目指してきたのです。いわゆる昭和時代と呼ばれる時代は今よりおらかな生活をしていたのは我々人生の多くを昭和で過ごした世代は知っています。話はそれるが、今まさに中国はそれにあたると思います。だから中国がそうした生活をぶち壊す「台湾有事」など引き起こすことはあり得ないと思えるのは常識ではないか。そう考えると、攻めてくるとかいうのは何か別の勢力が煽っているように思えて仕方がない。実際、中国はウクライナ戦争に全く加担していないとは言わないけど、できるだけ避けたい姿勢は見えない。その手本は日本であったのではないか。

話を戻すが、いずれにしろ今の状況を見極めることが大切です。その上で未来を考えることが必要となるのです。やはり、私はウクライナ戦争、イスラエルのガザの虐殺を見ても、そして、最近の世相が人の良いところを見ず、小さな落ち度のことばかり責める風潮のギスギスしたところを見ても、むのたけじが話していた「戦争のいらぬ やれぬ世へ」を目指すことが大切のように思う。それに向けての話し合いを盛んにしたいですね。

直近の課題としては、安倍政権により国民を幸福とするとわかれたいわゆる「アベノミックス」の弊害だらけだったことがわかり、その見直しがなされている時、安全保障環境についても議論すべきでないか。冒頭の安保法制違憲訴訟の話に戻すが、少なくとも日本の司法は将来に向けてのビジョンを示せず、自分たちの保身を図ったに過ぎないことが、一連の判決に見えた。司法がそうであっても、我々は結審したからと言って、諦めるのではなく、前に進める熱気があってほしかった。

(武野大策記)

これからの「むのたけじ反戦塾」(案)

2022年12月から始めた「むのたけじ反戦塾」は、今回で第9回目になります。8月の今回は、むのたけじさんの8年目の命日に近かったので、今までとは別な形だと思ったのですが、準備不足で思うような形を作ることが出来ませんでした。

そこで、今回は、第9回で話し合われたことをもとに、同じテーマで、準備しようとしていたことをきちんと準備し、再度話し合いを深めて行きたいと考えています。

準備しようとしていたこととは次のようなことです。

1) むのたけじの「反戦」とは、『戦争はいらぬ、戦争をさせぬ世へ』を考えていくために

- これまで一緒に見てきた映画の中で、むのたけじさんが訴えてきたもの
- 書籍『希望は絶望のど真ん中に』の要点整理
- 他の著作や講演の中で、むのたけじさんが「反戦」について訴えたこと

2) 今、私たちを取り巻く戦争の危機とは、具体的に

- 今回を含め9回の話し合いの中の「戦争の危機」について話された部分、出てきた意見を整理してまとめます。

3) 戦争をさせぬために何ができるのか？

- 「行動を」というと「デモに行く」「スタンディングなどで訴える」「まずは投票」「政権交代をめざす」などと言うことになります。
- もちろんそれはそれで重要な直接行動で、最終的に行き着くところです。
- しかし「何ができるか?」、行動にはいろいろな方法があり、それを一人一人が自分で考えることが大切だと思います。
- まず現状を「知る」こと、問題意識をもつこと、そして反戦への強い思い、戦争への怒りを持つこと、そしてそれをまわりの人に話し、共有すること。
- 自分が戦争について知ったこと、納得したこと、思いを人に伝えること、話すこと、拡げる方法を考え創ること、歴史に学ぶこと、なぜ戦争が起きたのか、どうしてそれを止められなかったのか?きちんと考えていくこと、

4) この会を継続的に拡げていく

- そうしたことを次の回には継続して、出来れば話し合っ行って行きたいと考えています。
- 反戦を考えていく上で、「こんな話を聞いた」「こんな本を読んだ」「こんな映像(番組)を見た」「こんな人に会った」そしてこんな風に考えた。一人一人がそうした情報を持ち寄り、出し合い、話し合い共有していく、そうした実感と実体験を話し合える場と方法(メディア)を作り出せたらと思います。これまで9回の会でやってきたように、きつと、納得して感心・感動した話は、この会を出て、他の人にも話したくなると思います。
- さらにそれを記憶し、記録し、継続してみんなで考えていけるような形を作りたいと思います。
- 次回は11月を予定しています。10回は一つの区切りですので、これからどうしていくかも一緒に考えていきたいと思っています。(花崎)

資料③ 第8回むのたけじ反戦塾(2024年6月15日)の記録 (1)

※「むのたけじ反戦塾の記録」は、毎回、参加者のみなさんの話されたことを書き起こして、次の回の手元資料に掲載させていただきます。ひとりひとりが、今考えていること、問題だと思っていること、あるいは「戦争はいらぬ、戦争をやらぬ世へ」という反戦への思いを出し合うことが最も大切だと考えているからです。

また、みなさんのお話したことを書き起こし、記録とすることを通して、この「反戦塾」に直接参加していない人にも、みなさんが考えていることを伝えていくことが出来ると考えてます。

しかしながら、録音したものの書き起こしているのですが、採録者の知識と教養の無さから、よく聞き取れなかったり、わからなかったりしたところがあります。採録しながらもこれは間違いではないか、と思いながら文字に起こしているところ(?)や(* * *)で表示)があります。

ご自分の発言と思われるところで、間違いがありましたら、お知らせ下さい。修正して正しい記録としていきます。



2:11:00

武野：私たちが岸田政府に戦争を起させないように、「戦争反対」とかいう時、その言葉だけしか言わないところがあるんですけど、私はこの会を経験して一番よく思うのは要するに戦争やらせないと言うことには、いろんなやり方がある、いろんな考え方があって、いろんなことがあるって、そう言うことをみんなで話を出していくことってがとても大事なことじゃないかなと思います。それで とくに日本が戦争に関わらないということに関して言えば、台湾有事とかいうことが関係すると思います。これは要するに台湾が中国の一部だっている考え方、祖国統一したいという中国側の考え方が元になっています。もちろん、台湾も独立した国 という視点があったり、尖閣の問題もありますけれども、日本を攻めるっていうようなニュアンスは、私には全然見えません。

ではなぜ日本を攻めるに関係あるかと言えば、私は安保法制の裁判に連れて行かれて、それでいろいろ感じるんですけど、集団的自衛権を認めたからだと思うんです。極端な話 あの要するに集団的自衛権を認めていなければ、日本の危機って言うものはある意味でありえないわけです。だから、集団的自衛権は憲法9条で認められていないと、多くのところで安保法制違憲訴訟というものがなされたわけです。その裁判はおおかた最高裁判まで行って、結審になっています。それらはコピーで書かれたような文章で、棄却ということでしたが、もし「違憲です」という判決が出されれば、それほど単純でないかもしれないが、日本政府に戦争をやらせないことになったように思います。今回はなし得なかったけど、「戦争やらせない」っていうことはそういう形でもなりうると思います。だから、日本政府に戦争をやらせないためには、単純に政府に反対だと言うだけでなく、いろいろな考え方、やり方ですということなんです。

ここで問題なのはいろんな反対運動が始まった時に、それらが連携するようにすることです。いろんな運動が単独でしては力を発揮できない。繋がり合うことで大きな力となると思うのです。互いの考えを尊重しあっていくことが大切だともうし、この「むのたけじ反戦塾」はそれができているように思えて嬉しいです。

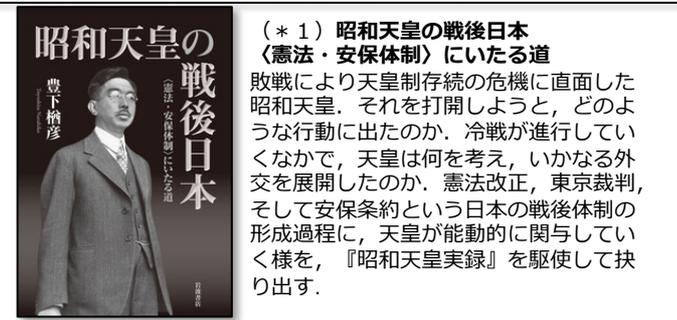
2:14:31

●M.T.: 今日のテーマは大変共感できました。

私は40年くらい前に日中友好協会というところの東京都連の事務局長をしてまして、3年くらいしかしてなかったんですけどね。そこで中帰連の方々のお話を聞いたことがあります。中国でどういうことをしたこととか、撫順の戦犯管理所で経験したこととか、直接経験者からお話を聞いて皆さんもお亡くなりになっていますけども、でこの中帰連の方々の証言というのがありますね。DVDで日中友好協会から販売されていますので 機会があったら是非、証言集をご覧になったらいいかなと思います。日中友好協会に問い合わせれば販売されています。

それでむのたけじさんの本の最終章になるんですけどね、最終章読んで、アメリカの話が出てきました。アメリカを訪問したときのいろいろな感想とかですね、日本は51番目の州だろうと言うようなことも書かれています。

私7年ほど前に「昭和天皇の戦後日本」(*1)という本を読みまして、岩波書店から出ている本です。政治学者の豊下楯彦さんが方がお書きになっています。



(*1) 昭和天皇の戦後日本
〈憲法・安保体制〉にいたる道

敗戦により天皇制存続の危機に直面した昭和天皇。それを打開しよう、どのような行動に出たのか。冷戦が進行していくなかで、天皇は何を考え、いかなる外交を展開したのか。憲法改正、東京裁判、そして安保条約という日本の戦後体制の形成過程に、天皇が能動的に関与していく様子を、『昭和天皇実録』を駆使して扶け出す。

2015年出版なんですけれども、ここにですね、昭和天皇の占領されてからのマッカーサーとの会談から日米安保条約の締結されるまでの、軍事的再編されるまでのことが分析されています。それで私は安保条約というのは、アメリカが占領して、日本を反共の防波堤にするために押し付けた軍事同盟だとそう思っていたんですが、この本を読みますとですね、もちろんアメリカの世界戦略で日本を利用しようとした軍事同盟、日米安保条約で、日本を、米軍基地を駐留させると同時に、実は、昭和天皇が、米軍の戦力を必要としていたということも資料や公開されたものですね。分析して明らかにしてるんですね。(2:17:11)

戦後史を少しでもかじっておく上で 昭和天皇は行ったこの犯罪的な行為 憲法違反の行為ですね やはり知っておく必要があるかと思って、きょう、ご紹介で本を持ってきた次第です。

で、戦争をさせないということは、今日のテーマなんですけれども、私もその通りだと思うんです。憲法をまもってあげればとかですね、軍拡反対というスローガンで、実際に戦争を止められるかという非常に難しいかなと思うんですね。自民公明が進めている軍備拡大の方向性を具体的に止めていく、例えばあの中国に届くような、中国本土に届くようなトマホークミサイルはダメだとかですね、攻撃型空母はダメだとか、日本、九州に置けば、中国に届いてしまうようなミサイルはダメだ、と。憲法違反だと言うことで、具体的に止めていく必要があるだろうと思うんです。

(次ページへ続く)

資料⑥ 第7回むのたけじ反戦塾(2024年3月20日)の記録(2)

そういう、これはダメです、これはダメですと、先程安保法制の裁判の話がありましたけれど、今、自民公明が進めている軍備に対して具体的に一つ一つ反対していくということが必要なのかなと。

それともう一つはですね、国民の抑止力論賛成という方が約六割、軍事力を高めた方が、日本を守ることが出来るんだ、と言う世論がありますので、これを何とか、抑止論では日本を守ることが出来ない、武器で平和を守ることが出来ないと言う風に世論を変えていく。それともうひとつは、野党第1党の立憲民主党ですけども、今年の1月に泉健太さんが、京都の自衛隊を訪問して戦車を前にしてですね、「自衛隊によって日本は生命財産が守られている」とそう言ったことをtwitterで流しているんですね、自衛隊に賛成なら賛成でいいんですけど、いまの軍拡に対して反対できない立憲民主党の代表というのは、ちょっと問題だと思いついて。ですから野党に対しては、日本が平和を守るために具体的に行動を起こして欲しいという要望を野党に出していく必要があるんだろうな、とそういう風に思っております。(2:20:15)

ちょっと今配りたいと思うんですけど、大分県で、今弾薬庫が作られようとしているんですね、弾薬庫は今あるんですけど、大分県の敷戸というところに弾薬庫が作られようとしています。その大分県の敷戸の住民が反対運動をするときにですね、この大型弾薬庫は青森と、京都の舞鶴に作られ大変な事態が各地で起きてきて自衛隊が使えるように港とか、空港とかを整備して実は、自衛隊と米軍が両方とも使えるような整備というのこれからしていくようですね、この反対運動のチラシ(*2)を今、配らせてもらったんですけど、この左側の真ん中くらいに抑止力を強化しても戦争は抑えられませんという文章があって、抑止力論では平和は守れませんよと言うことを住民の方々が訴えておられて、このチラシ非常によく出来ておられて、私、この住民の方々の意見とてもよくわかるんです。で、いろいろ平和運動、反戦運動を、これから市民が進めていく上で参考になるであろうと思いついてちょっと配らせていただきました。

(*2) この手元資料 P14 P15 に転載

2:22:26

●K.S. 戦争をさせないためにどうしたらいいかって難しいとは思いますが。私なりに話を絞って考えて見たのですが、もちろんいろんなアプローチというのがあると思うんですが、私なんか思うのは、やはり世論というものが変わっていかなくやいかんというのが、抑止力とかですね、今まで出ている話題も含めて軍事的なもの、戦争志向のような動きに対して、もう少し世論が何とかならないか、その世論というものを形作る決定的なものが二つ、一つも全体的なものに対して情報と言うことが大きいでしょうから、一つはメディアの問題だと思いついて、もうひとつは教育の問題だと思いついて。

メディアに対する批判はこれまでも出てますし、ここへ来るみなさんに対しては言うまでもないことですが、ただその両方とも、薬で言えば漢方薬っていうかですね、じわじわと変わっていく可能性はあるんですけど、一挙にですね、特効薬みたいなしてある日突然メディアが変わるとか、教育が変わると言うことは考えにくい、そういう意味で言うとなかなか時間のかかる、そうたやすく課題だろうとは思いついて。ただですね、そこで終わっちゃうとさみしいというか、悲しい話になっちゃうんで、それなりに考えて私が個人的に1つ前からちょっと気になってることで特効薬とは言えませんが、もしかしたら妙案なんじゃないかと、つまり世論が変わるっていうかですね、世論を変えと言うより、戦争をさせない政府を作っていくっていう風な意味でなんですけれども、ちょっと前の回でご紹介したあの東京外語大の九条の会が主催するその講演会が最近外語大のキャンパスであったんですけど、半田滋さんが、最近まで東京新聞の論説編集委員になっておられたあの半田さんの話が一番良かったんですけど、その最後のところで、今の軍拡的な状況を非常にうまくというか、面白くというのも変ですけど、そういう説明された上ですねじゃあ戦争させないためにどうしたらいいかっていうことと結局は今の政府にこうして欲しい、ああして欲しいという期待を持つよりは、

やっぱり戦争なんてしないぞという風な政府を作るべきだって。そういう結論っていう、ある意味では何だって言う感じですけども、そういう風に政権交代っていうものをね、本気で考えるべきだと言うことが、一番面白いところのポイントでした。

その上でですね、思うんですけど、政権交代っていうと、いまよく言われているのは野党が共闘できるのかというそれぞれの野党の歴史なり、いろいろな関係があるからそう簡単ではないのですが、政策も違う、けども、一本化していかなくや自民党、公明党政権でね、変わる体制は目指せないじゃないかっていうことで、そういう野党共闘志向というかそれはありますけど、それだけでないところでちょっと考えてきてるんです。

妙案って言ったらちょっと言い過ぎですけど、1つこれを話題にしたことはないと思うんですけど「ボートマッチ」(*3)っていうね、ボートは投票するの「ボート」、「マッチ」はマッチングというかみ合うというか、「ボートマッチ」という、まあネットでも検索すれば Wikipedia なんかでかなり詳しく説明が出てますけども。

(*3) ボートマッチ (votematch)

《voteは投票、matchは調和する、の意》有権者が、自分と各政党の考え方がどれだけ一致しているかを測定することができるサービス。インターネット上でアンケートに回答すると、自分の考え方に近い政党を知ることができる。日本では平成13年(2001)の参議院選挙で研究者による実験が行われ、平成19年(2007)に毎日新聞社、読売新聞社がそれぞれサービスを開始した。

私6年前にそれをたまたま知ってですね、ヨーロッパから始まったそうなんですけど、ドイツなんか随分進んでるそうです。簡単に言うと要するに有権者がつまり私は何党に近いんだろうか とどの党の政策がにマッチするんだろうかっていうそれを参考にして投票したらいいでしょうっていう、そういうシステムなんで、それをまあネット上の要するにアンケートみたいな形でつまり選挙の直前にですね、国政選挙 なんかの時に必ずドイツとかなんかでいろいろやってるんですけども、そのつまりまあ20問30問ぐらいの設問に対して各党の各党が、そのどう答えるかっていうね、まあ日本なら例えば原発なり、憲法改正なりですね、賛成か反対かわからないって言うそういうやつですね。そういうのを20、30の設問を立てて、その各党のあるいは個人的候補者っていうのもあるわけですけど、それぞれの回答をメディアが調べてですね、つまり発表するわけですね、そうすると、メディア上は結論だけ出ていて、有権者がチェックすると、最終的にどの党と自分が何パーセント、マッチしてるかっていうのが87だ、23だかって数字がパーセントと出るわけですね。それで、これは日本でないかと言えどもなくて、15、6年前から毎日新聞はやってるんですね。毎日新聞のサイトを見ると、国政選挙の前に大抵それをやってるわけなんです。ただまあ毎日新聞だけがやってるのじゃ寂しいなと思ってたら最近ではですねこれ数年前から朝日新聞も NHK もやってるんですよ、それがあんまり利用されていないというか、知られてないのがとても残念でね、その「ボートマッチ」で言うののつながりと、その何がいいかという、若い人が時の政党なんて選ぶの面倒だからわかんないよってそういう感じだし、若くなくても「なーんだこの党もいい加減だな」って漢字で、つまり、投票しないという棄権者が半分以上、とかですねいるっていうのがずっと続いてるっていうのを何とか変える1つの手立てになるんじゃないかなとまあ前から思ってるんですけども。そのまあ特にですね、その全国紙や NHK なんかやってるわけなんで、それが知られると、つまり面白いんですよ、その毎日新聞のボートマッチなんかでやると自分が意外な党と一番近かったりですね、そういうことがあって、しかも数字が出るから もっともらしいと、ただ問題もいろいろあるんですね、(次ページへつづく)

資料⑥ 第7回むのたけじ反戦塾(2024年3月20日)の記録 (3)

つまり設問の立て方が非常に面白いかな フェアと言えないような問題の立て方だったりですね、つまり「防衛費どこから出したらいいと思いますか」とか、「天皇は女性でもいいか」とか、とかいろんな説もあるんだけど設問と答えの立て方次第ではあんまり公平なとか公正な感じににならないのかなと思うんだけど、いろんな意味で、それぞれやってその知られていくことで競争関係が成り立つとね 切磋琢磨っ、もっともっと良くなるんじゃないかなと思うわけです。ま、そんなことをある種理想というか夢みたいなこと。そういうことで自分は何党と一番近いのか、あるいは何さんというか 一番近いのならじゃあ入れてみるかみたいな感じがあのそれなりに起きてくるとですね、少なくとも投票率っていうのが上がりよるんじゃないかとやっぱり選挙の投票率が上がらないということとをさんざん右も左も嘆いているわけですけど、ポジティブに選挙に行こうというキャンペーンをやっても、うまくいかない状況を少しは変えられるんじゃないかな、2年くらい知られて欲しいですねみたいなこと毎日新聞に投書をして、乗ったりしたんだけど、全然違う反響というか、何もそれでどうってことは全くなかったんで新聞の投書ってこんなもんだよなって一度だけの経験でも引き下がることしちゃったんですけど。それで戦争を止めさせようなんてたいしたもんじゃないんですけど。一つのちいさなアイデアとしてお話ししたかったということですよ。

2:32:27

●I.O: よろしくお願ひいたします。あの戦争の問題についてはですね、非常に関心があるので 今日あの時間ができましたので参加させていただきましてとこういことです。それでですね、私が戦争に関して考えていることは、例えば 国内でちょっと考えてみるとですね、なんか国内で刃物を持って暴れるやつがいると、それを抑えなきゃいけないとなるとですね、普通は警察を呼ぶわけです。警察が来て、一応一件落着になるとい話なんですけれども その暴れている人よりも、ものすごい巨大なその組織なり権力なり武器を持っているところがあるからこそ それで押さえつけることができたということだと思ふんですね、ところが、それを一つの国が暴れ出したと、侵略を始めたとか、侵略された方がやり返す、また侵略してきたらまたやり返すということになってですね、どんどんどんどん闘いが広がるだけなんです。とすることで一つの国質なんか暴れ出したら、それを抑えつけられるような強力な強大な力をもっている組織が今世界に無いわけです。国内で問題が起きたときの警察に当たるものがないと。それに近いものと言えればですね、国際連合があるじゃないかという話になるわけですね。国連ですね。国連が私ちょっと問題あると思っているのは、これはみなさんも知っているとおりですね。安全保障理事会の中に常任理事国が5つあります。アメリカとロシアと。イギリスとフランスと中国ですね。それがひとつづつの拒否権を持っているとこういことですね。なかなかこの5つの国がまとまらなないと動かないと、とこういことですね、停滞状態とこういことになっている状態が続いているわけです。私は何でもってこうい拒否権があるのかなって、考えて見たらですね、ただやっぱり第一次世界大戦の後は国際連盟って言うのがありました。で、国際連盟って言うのはアメリカ大統領のウィルソンがやろうってって言い始めてですね、結局アメリカが議会の批准が出来ず、アメリカは最初から入ってなかったですね。それからイタリアが抜けて、ドイツもヒトラーで抜けますね。それから日本も抜けてしまうと、日本なんか俺なんか、意見言っても全然、国際連盟で意見が通らないから ヤーめたってって逃げちゃうわけですよ。出ちゃうわけですよ。とこういことがあって、国際連盟が第二次世界大戦を防ぐことができなかった。ある意味、その反省が来てるんですね。つまり例えば、ウクライナとロシアが喧嘩してますね。で、ウクライナは常任理事国じゃないんですけど、ロシアが常任理事国だと、何かそんなところで喧嘩してんじゃないよという決議が、例えば安全保障理事会に出てきますね。そうするとロシアが拒否権を行使してダメだよということになる。もしこれで拒否権を抜いて、自分が言ってきたでめじゃないかって。そうすると第一次世界大戦の二の舞でロシアもヤーメタって抜けてっちゃう。

アメリカもヤーメタと抜けてっちゃう、そうすると第一次世界大戦の国際連盟と同じになっちゃう、という危惧がある、という話なんです。

それはまあそうだなと思ひながらもですね、なかなかこれがうまくいかない、それでですね、次に考えるのはですね。これは本のテキストになっていると思ひますが、「希望は絶望のど真ん中に」という本の中に、むのたけじさんのの中に「世界連合」という話が出てくる。この「世界連合」の設置を中国の大地の上にあるべきだと、言い出して、まあ、この世界連合はどういうものかということとは著しく書いていないので、もう少しむのたけじさんと話を煮詰めて、こういのが「世界連合」でこういので作って、こうやって戦争がなくなるんだとこういことをきちんともむのたけじさんに書いて欲しいんですけど、これだけだともうちょっと書いて、これで終わりかなって言うだけで同じかなとこういことになっちゃうんで、お前はどこう考えるんだと言われても困るんですけど。

だからですね、要するにこれから私、推測でしかわからないんですけど、ある程度、今、国連軍というのは条文があります。国連憲章の中に。ただしそれはほとんど注目されてないんですけど、どうしてでもですね、あそこで紛争が起こってダメだと、言うことになればですね、国連軍というか、世界警察みたいなものを作ってきちんと抑える、

どこの国もこっちの方が境界が突いている(?)し組織もでっかいし、国際警察みたいなものですね、それでやるしか無いんじゃないかと私は気がして。

それでですね、日本国憲法の中でももちろん第9条というのはこれ有名なありますけれども、その憲法9条を、これは具体的な方策なんですけど、戦争しないための、その前提となる、これはみなさんもご存じの通り、前文のもとに生存する権利があることを確認をするというそういう前文のところなんですけれどもこれがいわゆる平和的生存権ですね。この平和的生存権ってどうい風に考えるかって言うことなんですけど。これを考えると非常に厳しい話になってくるんですけど、「戦争は反対だ」ということは言います。私も耳にたこができる位に。こうい集会の時に出るんですが。「戦争は反対だ」という言い方は、じゃあ「戦争は誰がやるものなんですか」と言うことなんですけど、何か政府かなんかがやってですね、それに我々反対なんだ、とこういニュアンスになっちゃうんです。だけれども、国民主権ですから、最終的には、政治の行方をきめるのは国民だと、そうなるとその中の一つの基本的な人権のひとつとして、平和生存権の考え方からすると、戦争というのには反対という言葉でなくて、「私は戦争に、私がですね、戦争に参加しませんよ」と、私が戦争に参加する権利でなくて、私が戦争に参加しないんですよ、とこういようなニュアンスで捉えないといけないと思ふんです。

また戦争は反対だって、反対だけ戦争になっちゃった、悪いのは政府なんだ、と、反対したけど戦争になっちゃいました、そうい話になりそうなので、厳しい話になりますけれど、お前にそれができるかという話になりますが、この平和生存権、「私は戦争に参加しませんよ」というのをつらぬくのは非常に大変です。実は、これは私は戦争経験者ではないですけど。戦争のことは言えば、非国民と言われた時代にね。だから今だったら台湾有事に参戦しようとかいろいろ言われますけど。この日本の領土じゃない、個人的なことを言えば、共通の管轄にすれば良いなと思ひますよ。どっちの国がとるとか、そういことを言い出して、戦争になりそうだったら、「私は戦争に参加しません」と言ったところで、なかなかめはしませんけれども、でも「私は戦争に参加しません」といことをいってですね、拡げていきたいと、そういことを言うと、昔だったら非国民と言われたり、昔だったら刑務所に入って拷問されて死ぬかも知れない。だから例えば、共産党の人が反対と言ったりして、山に隠れてずっと逃げて戦争終わるを待ちましたとか、いろいろ聞きますけども。そういことなんです。この平和生存権というのですね、私が偉そうに言ってますけども、実現できるかわかりませんが、権利が近くにあってでもですね、「私は戦争に参加しない」と言う言い方でやるしか最終的に無いんじゃないかと思ひます。

(次ページへつづく)

資料⑥ 第7回むのたけじ反戦塾(2024年3月20日)の記録 (4)

2:42:50

●S.Y 84歳です。まず今日の資料を見ているとですね、大槻さんがおっしゃったことがズバリ出てくるんですね。一番最後に出てくる、誰が集団的自衛権を必要としているのか。しかしとにかく日本は憲法9条を守って戦争しなかったと書いたこれに対する回答を出さない人、組織、これは全部ペケですね。子どもの前で言い訳が出来ません。誰が、と言うことについてきちんと整理しなければなりません。今、やってませんよね。私に言わせれば、これは、かの戦争の歴史の中から学ぶ以外にないと思います。だってこの国の形が出来ているのは、戦争が一番大きいんです。

日本はまだ暴力革命を訴えた政党はありますけれども、まだ市民革命を経験しておりません。その点はイギリスとか、フランスとかそういうヨーロッパの国と全然違う。明治維新も革命という概念で規定する人が中にはいますが、あれは下級武士集団が動いたので、民・百姓は、ああそうかという感じで、よって我々日本が革命を、市民革命を経験したりしてないんです。それはどういうことかという、操作に非常に弱いんです。操作って言うのは情報操作ですね。1800年ごろからはもう6割越えています。*****誰がそうしているのかと言うことです。みなさん政府と言いますけど政府じゃないんです。政府は何もやっておりません。メッセンジャーでしかない。そこが基本です。なぜ歴史に もっと学ばないのかと言うと、財界、資本が政府に言わせているんですよ。

いわんや、自衛隊員とか、軍人じゃないんですよ。軍人は手のひらの上のコマみたいなものです。

そのからくりが今度のロシアの今、プーチンですね。戦略戦争でよく見えてきたんじゃないかと思うんですが今報道されている戦争の実態は今私が言っていることが、ああそうなんだ、と、つまりどういうことを言わんとしているのかと、

つまり軍人でもなければ、大統領でもないんです。背後に働いている資本、そこで、79年8月前の18月15日にまず進駐軍マッカーサーがやった4つの改革ですね。これは日本共産党が革命の課題にしたものを全部先取りして進駐軍がマッカーサー命令でやりました。ご存知ですか。財閥解体ですよ。昔あった鴻池をはじめ、三井、三菱、住友、これを解体しました。これは日本共産党の課題の中にちゃんと入っていた巨大企業への搾取というものを、それは共産党がやらずに進駐軍がやりました。ふたつ目に農地改革、どうですか 1905年から17年まで続いた第1次ロシア革命、これはロシアの農奴を解放して初めて世界で暴力革命が成功したんです。このインパクト、ものすごかったです。日本の知識人たちは、共産主義にほとんどマルクス主義に傾斜しました。そして正義だったんですね。ソビエト、共産党だけじゃ無いんですよ。多くの知識人がマルクス主義に傾斜しました。

つまりロシア革命の影響を、あれから何年たっていますか、今日現在も、みなさんの発言の中にもありましたけれども、天皇の名を使って日本を再軍備させたり、沖縄を捨て石にしたのは共産主義の防波堤になると言う言葉、誰がおっしゃったと思うんですが、それは結局ロシア革命の幻影といえますか、これを未だにはっきりと我々の政治にしくメレていると言うこと、ここが非常に大事なところですよ。

それから、労働三法の成立これもやりましたね。争議権の確立。進駐軍がやりました。つまり何が言いたいかと言いますと、日本共産党は102年の結党の歴史がありますが、なぜ革命ができなかったかと言うと、4つの命題は全部マッカーサー命令でやり遂げて、共産党はその場を失った。今や天皇制を認め、自衛隊合憲を認め、いわば共産党の勢力というものも一時のような勢力を持ち得ません。これは某宗教団体政党との競合があったと言うことで 私なりに分析しておりますけれども 大事なことです。そういう歴史に学ぶという姿勢が大事なんです。この2ページから書かれている「集団的自衛権は誰が必要としているか」という誰かと言うのは資本だと言うことを、報道的に理解すると言うことはまず大事、政府じゃないんです。政府はいくら書いても、匿名のパーティー券を1枚 10万円 20万円じゃないんですよ、100万単位で買ってくれる企業って名前を出しておりませんけれども、どこが出しているのか、って。誰が、出してるんです。、

これが、自民党や、現政権を支えているんだって言うことの、行動的(?)分析が成されないまま、こういう勉強会を何回繰り返しても戦争は防げないというのが結論です。

従って日本が第9条を守って戦争しなかったというのも大きな誤りです。9条を守ってじゃない、9条にもたれかかっている、9条は守ってません。9条はすでに破壊されているんですよ。だって世界第3位の軍事大国ですよ。外から見ると、中国から見ると、大変な脅威ですよ。日本は。そこへ持ってきて米軍基地もある。それをますますせばめてきて、今琉球列島、進めてます。軍事要塞になってるじゃないですか。日本は憲法9条をもって戦争しない国になったんじゃないんです。憲法9条に持たれてたからこんな国になってしまったんです。

これを33年前にメーデーの時に言ったのは、司馬遼太郎という作家です。彼は3年4ヶ月ですかね。約3年、文藝春秋に連載しました。この国の形という彼のエッセイです。この国の形という彼の概念の中に、戦中、戦後の日本の姿っていうものかなり彼なりの歴史などで彼の死後(?)、彼の小説とちゃんと整合(?)しませんけれども、この国の形があぶり出し戦争と平和という命題で、8月15日東京で開催します。シンポジウムです。

誰が自衛権を必要としているのかの、誰かを明確にする。憲法9条を守って戦争をしなかったのではない、国民とくに左翼の連中はもたれかかっている、憲法9条の会、私の親分の梅原猛も呼びかけ人の一人ですが、しかし親分の呼びかけ人はあの時点で、やむを得なかったと言うことで、呼びかけ人にならなかったそして5年前にお亡くなりになってますから、私はそこまでどうのこうの言いません。しかし9条にもたれかかっているんだという自己の立ち位置について厳しい認識がなくて、資本(?)は笑っています。ああやっぱり俺たちの***** (?)なんだ、なに言ってるんだと。

世論操作だと、その到達点、6割が、軍備拡大すべきと複数の世論調査機関のデータが出ているんです。笑いが止まらないんですよ。だから三菱重工とか、大企業の名前、ここで全部の名前を挙げてもいいですけども、今非常にそう言う国民の不勉強の中、いい気分にして、自己陶醉(?)、幻影に酔っている姿を、笑っている人がいるんだという厳しい自己批判のもとに、こう言う会合を見ていかねばならない。

いわんや、米国 中国 ドイツ インドにGDPを追い抜かれ、日本は今第五位に、世界のトップを一時で走ったこの日本が、今や世界の第5位、日本はどんどん衰弱していく姿を33年前、「この国の形」という中で、司馬遼太郎が明言しています。このまいくと日本は、衰弱の一途に行くだろうと、書いてあります。私はやっぱり歴史の教訓にもう少し謙虚に学ぶ、それでいて今日の映画は非常に良かったと思います。私もあそこに行ってこの雑誌の特集をしました。何年前か、4~5年前ですかね。あの、埼玉のね。それで取材をしてこれに載せました。それなりの反響はありました。やはりもう一度、念のため申し上げます。

この2ページで書かれている ここに対する回答が出ない限り、何回こう言う会議をやってもそれは幻影に酔っていると云わざるを得ない。それは太宰治が、「パンドラの箱」という本の中で言った言葉です。

私は太宰治がなぜ共産党に入って「細胞芸文」を発行したりしながら、共産党にもだえ苦しんで、青森 警察に自主します。俺に縄を付けてくれ、自分は治安維持法第何条、治安当局は全部つかんできました。しかしお父さんが貴族院議員の坊ちゃんですから、高校生でありながらも共産党員、細胞です。そのなかで誰もが見た。共産党の仲間と接したい、この*****では日本に革命が起こりえない、あの鋭い観察眼、ですから彼は共産党だから縄を付けてくれ、青森警察へ行って縄を付けてもらう、そのことを私は映画にしたいなと思ってるんです。今この出席人(?)は、はじめ、一般国民が考えなきゃいけないのは、自分の、自己の幻影によつて、自分の姿にこのままでいいのかと問い続けた太宰こそ、答え(?)があるのではないかというのが、今日の結論です。

2:55:26

司会：誰が「集団的自衛権を必要としているのか？」というのは、アメリカじゃないですか。

矢間：アメリカと一緒にあって儲けたい資本家なんです。

資料⑥ 第7回むのたけじ反戦塾(2024年3月20日)の記録 (5)

司会：それはそうですけど、アメリカですよ。
財界とか、資本と言うんだったら、国境の話じゃなくて、コングロマリット、資本に金融とかそう言うところに関わってお金を儲けようと考えている人たちですよ。と言うことは我々の中にもそれはあるわけですよ。

2:57:46

●I.Y. あの世田谷区から参りました山路と申します 88です。
今日、むのさんがね、中国にいらっしやったときに、とてもひどいことを目の当たりにして
でも真実は書けない、載せられないけれど、ウソは書かないっておっしゃってますよね、
今の新聞どうだろうか、ウソは書かないって言っても、何にも載せられないんじゃないかって言う感じを強くしております。
で、きのう種子法廃止は、憲法違反だっていう裁判の高等裁判所の控訴審3回目になったんです。それで私ちょっと東京にいなかったのでもしそこに、この中でいらした方があれば 教えていただきたい。もう結審になりましたか？

●T.I. 10秒、棄却です。

●I.Y. : とにかく、そう言うことを、たくさんの人に知っていたかなきゃいけないと思って、私は東京新聞に投書して載ったことはあるんですが、どうしてそのことをみんなが知らないかって言うと 例えば大企業が***っていう品種をもうほとんど 独占できるって言うか 農水省が全国にそれを推し進めてるって言う、だけどころな***を犯しているって、種の純粋さが守られないって、それからこれは 発芽率がどのぐらいですか、70%ともないのに嘘。

そういう情報をですね、私を知るかぎりでは東京新聞と日刊ゲンダイは 記事にしたんですけどね、他ではみんな目にしてない。ま、とにかく、みんなが本当のことを知るように どうしたらいいかっていうことを考えなきゃいけないって言うことはもう思うんですけども みんなが勉強すればいいけど、私はね、議員さんの区議会、市議会、県議会 ほかに議員さんの質がとっても落ちている、(ごめんなさい関係者がいらっしやったら…) そのことがとても気にします。

その種子法の問題に関連して、種子を守る会って言うのをやりましたら、その時に千葉県のある市議会から食糧庁とか、いろんなところに入って、例えば今ね、いろんな表示を見ると、国内製造って書いてあるのが多いんですよ。輸入って考えない(?) みんな勘違いするの、国内製造って書いてある。それは、食糧庁がそう言うのを許しちゃってるって言うことは 生産者側に立っているんなことやってるわけですよ。それをきちんと、みんなが正確に輸入品なら輸入品でわかるようにして欲しいということを 千葉県のある自治体が、意見書を出したんですよ。でそのコピーをみんなにその勉強会の人に配ってその時に それを持ってきた市議会議員が言うのには、ほんとにね、それを出せるか出せないか、ギリギリの賛否両論があつてからうじて通つたらいいんですけども、反対した人に反対した議員にどうして反対したんですかって聞いたんです。イヤー、共産党が賛成してるから反対したんだって、つまりその位の議員さんもあるって言うことなんですよ。ここで実際のこと言つて、これは書かない方がいいんだけど

(?) 杉並区の区長さん前の区長さん、男の人。今女のひとなりましたけど、私、玉川上水の放射線(?) 道路を作らないように、一生懸命やって、玉川上水は杉並区なものだから、杉並区の区議会を傍聴に行きました。何年も、何年も、その前の男の区長さんは共産党が大嫌いなんですよ。それで、共産党の議員が発言しているときにヤジ飛ばすんですよ。信じられます? 国会を直す必要があるんだけど、身近な議員さんを教育していくことって、すごく大事ですよ。そのためにはみんなが傍聴に行けばいいんですよ、そんなことをちょっと考えています。

自衛隊について言えば 私はね 災害救助隊ということに徹して、憲法9条かなんか自衛隊のことを載せるとか載せないとか、あれは自衛隊にゴマすってるような感じがするんですよ。だから自衛隊の人に誇りを持ってもらうためには、もう災害救助隊でいいじゃない。

もう、どんなにみんな感謝しているか、災害のところで、そういうことで自衛隊員にも誇りをもってもらって、武器はどんどんどん無くと、いろんなこと考えておりますけれど はいありがとうございます。

3:05:27

●H.N.: 調布から来ました中村と申します。毎回勉強になるんですけども、今日の映画の話からしますとね。周恩来が***、うすうす知っていた。周恩来の話は知らなかったですね。改めて歴史を学んで、今回参加した****でとて、ある戦争、ドキュメンタリーを見てですね、加害の歴史を知るといって、ぐっと、突き刺さったものがある、何年か前に。それからずっと追っかけてます。知って、自分なりにかみ砕いて、ま、頭の整理ですね、歴史を自分なりに再構築することが大事になって。で、もう70いくつですから、それをどうやって、僕はこうやって昔の歴史を、聞き知った、身にしてみた、まだまだもっと勉強したい、と言うような同じようなトリガーと、若い人と中高生がきっかけを持ってやるようにしたいなと思ってます。

それがまあ当面のテーマですけど。

先程、お話しあった方と同じですけど、やっぱりうすうすとどんどん迫ってますね。メディアあるいは教育がすごいじわじわと、どんどんとのやばいですね。今日午前中にですね、教科書検定の話があつて聞いてきました。狛江市でそう言うのあつたんですけど。狛江市の教科書選定の教科書ネット21(子どもと教科書全国ネット21・<https://kyokashonet21.jimdofree.com/>)、うすうす知っているんですけど、QRコードで入って、実際見ないとわかんないね、で僕は 調布市の教科書はこうなる予定の選定を図書館に行つたらばみんな貸し出しになっていて、自分で見れる様になっていない。で教科書で****、そういう話を実感でわからない、自分の身の周りにないものですから。だけど、知ることが大事でもある。さっき言った僕のテーマで言うと、こんなドキュメントがあつてこんなことが知れると言う話は、教科書の副読本の参考資料にしたいと思うんです。

自分で学んだことは全てじゃないけど、こういうきっかけをする教科書の歴史の本から引っ張って見れるんですけど、そういうきっかけでドキュメント映画を紹介します。そんな感じの編集をしたいとずっと思つてます。そうすると自分が知る(?) ことがあつて、中高生があるところ意識を持って学んで、もう1個 突っ込んで自由研究 入ることができるから、そんな材料を提供してあげたい。ちょっと前にですね NHK のメディアセブン(川口市立映像・情報メディアセンター、中にNHKアーカイブスがある<https://mediaseven.jp/about/>)、埼玉の方にあるんですね、ドキュメンタリーを見たんですね。NHKドキュメンタリーでいっぱい出てくるんです。ドキュメンタリーでもう1回歴史の部分を辿っていく、と言うことが僕も実際そうなんですけど、多分中高生、問題意識のある***、そういう文字内容に、教科書も、先生も、公開していきたいなテーマで、今回多分そういう意識あると思つてます。自分をみがくことと思ひます。

もう一個、調布市で、僕はあんまり市民活動ってわからないんですけど、自衛官募集の名簿提供の話、それどこでもあるって言うお話して、いろんな自治体でどうなってるのって言う話に関心を持って、今、練馬で、自衛隊募集がすごいすごい説明があつて、各自治体でも自衛隊募集の実態で、中身はわかっていませんけど、「なぜ自衛隊は募集強化するのか」募集してもいいんですけど、要はどういう仕組みで自衛官募集がしてるか、浸透することを狙っているのではないかと、ということです。****データ 募集することを狙って成り立っている設定が自然 半分 引き出して 話の結果が少なかった そういう仕組みはできて大事 多分そういうこと 半分と思ひますけどね もっとやばかった話 なんですけど
明治天皇の玄孫の竹田恒泰っているじゃないですか。YouTuberで騒いでいる。この人が書いた「国史教室」があるらしいんです。それが前回の検定は通らなくて、今回は通つたろうという話とですね、こんなすごい出しちゃって、それに扶桑社とか育鵬社とか あつちの方がまだましだと、そういう風にもって行くと言ってましたけれども、そういうねらいもあると思うんです。そういうじわじわとですね、まわりを***していく、と言う話を聞きましたんで。

3:13:13

●M.M.: 川崎からきました。どちらかという私は場違いなのかも知れないのですが、何回か勝手なこと言わせてもらってます。今日のテーマの「戦争はなぜなくなるか」って言うても、歴史の関係でいけばいささかのデータはあるんですよね。これからのことだったら今日本の日本と中国の関係だったら先の大戦で日本人は310万人死にました。だけど中国人は2000万、それだけかよってという賠償もちゃんとしてないでしょ。ドイツとロシアの場合は、ロシアの場合は2700万人、あの戦争で死んでドイツ人は何人死んだかっていったら350万人程度じゃないか、これって、深層心理の中にみんなが、みんながっていうか、中国およびロシアの人たちの中にはしっかり残ってるんですよね。表に出る、出ないは別にして、謝ったかどうかと言う辻褄を合わせるぐらいのことなんかできないじゃないですか。そんな中で周恩来さんの対応って、中国のことで中国の文化史のキーワードで宋の時代から清の時代まで基本的に朱子学なんですよ。朱子学のルールでいくと、いつまでもこだわることよりも、これからどうするかという、それが基本のリーダーの共通認識ってあったら本道を行ってるわけですよ。だけど日本にも朱子学は伝わりましたよね、だけど朱子学の中で五箇条の御誓文、その筆頭に取り上げられてる、あれ「大学」がもとですよ。広く会議を起こしてまではわかって、公論に決すべしって、言った時に公論っていうのは、あなたの意見をそこで出してください。私は誰々から聞いたこういう情報でっていうことを聞いている、問われているんじゃないで、あなたはそのことに対して責任を持って議論の場に向きあってくださいよ、でそれは日本人、ほとんど意味わかってないでしょ、普通はこう思うよねじゃないんですよ。自分はそう思うって言う。そう言うことしか言わないって言うひとはそうですよ。それが朱子学として継承されている。そこんところが一つ周恩来のこと。

あと中国との問題の関係で田中角栄が毛沢東に会うときに、先の(戦争で)こんなこと(迷惑)があつてね、それは交渉に来たんじゃないのかって、そんな軽々しい言い方してたら自分で交渉を潰すつもりかって注意した。でもそう言うことも一般にどういうやり取りがあつたのかって言うことまで伝わってないからね。そう言うこととか、あの文章の中で、何で普通の人があんなに残酷行為があつたのかって、普通の日本人があんなことできるのかって、これはいわゆる撫順に行った人がそうでない(?)ある程度日本に引き揚げてきたかなり多くの、罪を免れて帰ってきた人たちが、つい20年前位までは内輪で地域部隊ですよ、日本の軍の、日本の県の、金沢のとか、何々師団のとか、そういうようなうちで人には一切立ち入らせないで集いをしてその時の話っていうのは基本的に今日むのさんが言ったように、戦争中の時は面白かったよなっていう、実は自分も直接会って聞き出したんじゃないんだけど、自分の青春は中国でウサギ狩りしてた、時あんな面白いひと時は一生にあの時だけだ、皆さんはそんな思いは出来ないだろうって。兎狩りって言うのは中国の一般の人のごと、一人二人殺すわけじゃない、できるだけ殺すわけですよ。変な話なんだけど、例えば戦国時代の戦記ものなんかを見たりしてイメージできればもし人間が最も喚起する状況ってどういうことか、自分の生死に向き合って殺し合いをしたとすると、外部から麻薬を摂取するよりも、体内から麻薬に準ずるようなそれがあの火事場の馬鹿力のような、そういうような時にもうバンバンにこう体が活性化しちゃうわけじゃないですか、そういう状況の中で戦場に行くと、もう殺し合いなんかするその感覚を覚えちゃった人はいわゆる殺人はなぜ悪いんだと、殺人をする時の快感それを知っちゃったらもうモラルなんか、いいできるかって。そこがキーワードじゃ無いかと思うんだけど、その関係のことって言うのは、一番、歴史を語る人はちよこっつしか人殺しがねそんな楽しいものか、それはいじめ、いじめがなぜ楽しいのかっていったら、いじめしてる人がいじめられてる人の状況に向かい合った時に体の中で快感覚えちゃうわけですよ。で、そういう一面ももっと表にしてもいいんじゃないかなって思います。

後、歴史のことで、中世の頃からイギリスって不動のあの成功を収めてますよね。イギリスの成功って言った時に最大のキーワードって例えばインドを占領していった。それから去る時にインドは分割されたわけですよ。分割にネールにしても、ガンジーにしても、一つにまとめたって言うのに対してまとめたって言うのに対して分割だったわけですよ。さらにその後、今のトルコ、トルコの管轄ってすごく広がったじゃないですか、シリアもイラクにしても。イランのすぐ近くまで。エジプト、リビアの方も。それで自分たちの都合のいいようにその後を管理するっていうまさに完全に成功体験ですよ。その小さいのがアメリカと一緒にあってイラクの分割も、イラク戦争が始まる前に、ラムズエルドが中心になっていわゆる財界がここはうちがもうらうよ、ここはうちがうって、線分けをしてるわけじゃないですか。そういう人たちににとっては、戦争ってたまらないわけですよ。よごとかって言うとも、日本が、戦後、なぜ復興できたかっていったら、朝鮮戦争とベトナム戦争でポロ儲けをしたわけじゃないですか。財界が。三菱重工なんかは、ナバーム弾19万発もアメリカに納品している。三菱だけが儲かっていると云ったらとんでもない話で、ナバーム弾のpatent料とるから自分たちは作らなくても懐に入るわけですよ。笑いが止まらない。ベトナム戦争の時も、日本が、日本の財界が、ナバーム弾の***、今回大分のところに、ミサイルを配備する、そのミサイルどこで作るんだと言えば、多分、三菱重工じゃないですか。それに対してのpatent料は、アメリカが同じようにもっていく。そういう利権の関係者が群がっている結果なんじゃないかなって私は勝手に想像しちゃう。そういうことを議論しないと、問題じゃないのって矢間さんがいったのはそう言うことじゃないかと思えます。

先程のトルコを解体して、すごい成功体験があつて、イラクのこともあるけど、この次にイギリスとアメリカの軍部と関係軍事産業がマークしたっていうのが、今まさにロシアを解体しようって言うまさにそれですよ。ロシアを解体する最後のキーワードが2年前の暮れ辺りにウクライナにいるプーチンの息のかかった情報関係者数十人が皆殺しになったわけ。さすがに自分の仲間だったっていう人たちが皆殺しになったら、それで切れちゃって2月から戦争始まったんじゃないのってあれが、であれが私はそれが一番中道な(?)話だろろうと思うんだけど、ほとんど話題にならないじゃないですか。だってその辺でもしロシアが解体されたら、ウラジオストックとか、あちらの方はモスクワから分離されるわけだから日本の経済界の関係者も今度は楽でいいねって。思惑、当然あつてもおかしくないでしょ。だってそう言うことをみんな話さず場が湧き上がってきたら、やっとな、五箇条の御誓文が言っている議論らしいもの、分かっているものをなで回す、言い合いをするんだしたらそれ議論でも何でもありませんよ。新しいもの生まれないですよ。核心になんか近づけないですよ。そんなこと思ってた聞いてました。すいません。

3:26:40

●K.S. ここで2枚資料配りますので、1枚目ベトちゃん、ドクの5月1日の毎日新聞の記事なんですけど、私35年前にですよ、当時サイゴンの病院にたまたま見舞ったんですよ。で一番左の下にドクチャンが何を言ったかと言うのがあつて、ベトナム戦争はアメリカに戦争止めなさい、っていうのが言えたけど、今は、善悪解らないって。結局これは、ウクライナにしても、ガザにしても、2000年前にイスラエルにユダヤ人が住んでたからいまさら帰ってきて、国を作ってパレスチナ人はガザに押し込められてる言うことですよ、私、海外旅行一人で行くゆうのが***で今まで124カ国一人で行ってきました。去年もイスラエル行ったんですけど、7月3日から行ってきます。(次ページへつづく)

資料⑥ 第7回むのたけじ反戦塾(2024年3月20日)の記録 (7)

まあ飛行機が飛んでるからまあ大丈夫だと思うんですけど、ここで一番思ったのはですね、もう西岸地区なんか、パレスチナの警察官がいるんですけど、丸腰で何も持ってないんです。ただポリスのTシャツ着てるだけで、綺麗な英語で観光案内する言うぐらいですね。ものすごい厳しいのになんであんなあの西岸地区でもこないだまだ600人ほど殺されてるって言ってましたけどキリストが生まれたところがどうなってるんかなと思って行ってみたんですけど何であの、平和そのものだったのにですね、まああれはもうガザなんかイスラエルは知ってたけどもう泳がしすぎててああいうことになったんであんな武器なんか入るわけないんですよ。厳しいから。私びっくりしたゆうんか、空港に着いて、あれと思うぐらい簡単に顔写真とられただけだったんです。で、まあ行動も自由だし、でアメリカ大使館はどうなっているのかなあって、エルサレムの近くのトランプが言ってあそこを首都と認めた言うことで大使館あったけど、写真はとってもしろんな国、最近行ってアメリカ大使館はもうどこも、写真撮影禁止でも近づけなかったんですけど、エルサレムのアメリカ大使館だけは写真も自由だし星条旗が上にかかってあそこがアメリカ大使館だなんてわかるんですけど、去年の11月にカイロに行ったんですよ。アメリカ大使館と、エジプトはイスラエルとも国交があるんでイスラエル大使館、イギリス大使館、これどうなってるんだろかなと思って、ホテルで交渉して行ってみたいと言ったら、そしたら135ドルかかるけど運転手が嫌がるんですよ。撮影禁止で、駐停車禁止で、それで良かったら言うことで行って見たんですけどびっくりしましたね。最高裁判所はガラスとか入ってるけど、大使館3箇所が同じ中に入ってドームになっててですね、国旗はないし、これはもし何かやってもあれじゃあ人命にもまあ確かにのこと考えてああいう作り方してるんだなと思ってんですけど。

ちょっとすいませんベトちゃん、ドクちゃんの話なんですけど、35年前行ったの書いてますけど、たまたまユースホステルに泊まってたときに、東大の学生が50ドルの見舞金で行けますけど言うことで、まあ誘われて行ったんですけど、この時ショックだったのはこの地下の標本室にですね、まあ本当にあんなだけあの遺体が、ホルマリン漬けになった赤ちゃんの遺体が頭が半分上がらないんですよ、髪の毛が下にあるし、脳みそがそのまま見えてる赤ちゃんとか双子児の赤ちゃんを、何でもこんな子供が生まれて来たんだと言うのはあったけど、それで一番最後に書いてますけど、ショックだったら、整形外科医の会員にですね、私は「海外旅行研究会」の会員があって、私事務局をして、会報を発行してたんですけど、そういう電話がかかってきて、物見遊山言うたら物見遊山ですけど、私の旅行全部、実際にどうなってるんだろかなって、まあ報道されてると全然違う場合もあるし、まあその辺、共同通信の世界日報、世界年鑑には乗ってる通り、ウクライナの子供ですね、あそこには沿ドニエスル共和国というロシアしか認めてない国がウクライナの西の方にあるんですけど、それでウクライナについて、ちょっと私に言ったら、去年の戦争、あれは戦争じゃない、ウクライナ人に言わせたら、ロシアから祖国を守ってるだけなんです。で、それもウクライナ人ですけど、ウクライナ系ロシア人、たまたま港区の異業種交流会で50歳の女性に会ったんですけど、彼女が言うには、私はウクライナ人だけど、ロシアのパスポート、ソ連邦が崩壊するときにですね、たまたまモスクワに留学してて、国籍を得られた言うんですよ。私はウクライナ人だけどロシア人として、ロシアのパスポートで日本へ来てますって。あれ東部の方は、ウクライナ人でありながら、ロシアがいつて言うので、ロシアのパスポートを持っている人がいるんで、プーチンは、在留邦人の保護言うことで、戦争を仕掛けた言うようなことなんです。

何もかもそうなんですけど、一概には言えないです。もう一枚の頼清徳が5月20日に就任式があってですね、20日の日、私ちょうど***にいたんで、キャセイパシフィック航空に乗ったんですけど、十数種類の新聞いろんなの置いてましたね。

他またのこの新聞に、就任式が今日あるというので日本から31人、これその時の就任式のを特別にもらったんですけど、これなかなかこの写真はまああれだったんですけど、右の日経新聞、これ就任式の日ですね台湾を取り囲んでこれだけ中国が大演習して嫌がらせをしてですね、そしてその下の23日の毎日新聞、毎日新聞にはこの日本が日本になるって中国大陸を中心にですね、左に福島みずほそれから鳩山元総理であらゆる(?)人数を中国大使館に呼んで講演した時に日本がこの日の台湾有事が起こるか起こらないかは中国次第だと思んですけど、私、総統選挙にも興味があってですね、そんな風かなと思って、台湾に選挙目当てで行ったんですけど、その開票速報は台北独立連盟言うところで見たんですけど、すごい今まで独立連盟は駅から離れた薄暗い小さなところにいたんですけど、台北駅の真ん前ですね、まあ日本で言ったら丸ビルの上みたいなのところにすごい人数が集まってですね、台湾人を見るには現状維持、独立はすると言ったらアメリカもあの手を引くし、まあ中国にやられるんで、現状を維持ですけどこの現状維持がいつまで続くか、それでまあ安倍が行ったあの台湾にはですね、台湾にはですね、まだ日本教育を受けて皇民化政策を受けて、今だに私の体は台湾人だけど中身は日本人です。私のこの昭和10年生まれの子田さん(?)に言う人に会いましたが、日本時代が懐かしいですね、ふるさとの歌追いしで、3番まで歌ってくれましたね。まだそう言うのが年齢的には90過ぎの人が何百人か、何千人かいるはずなんです。この台湾有事に関しては日本は50年間統治したた言うことがあるんで、私はまあどう言うんかな他のところよいか。とくにウクライナ、ガザ、今年7月3日から行ってみるんですけど、今度はラマラいうところに日本の代表部があるんですけど、そこにノルウェー大使館も***作る言うことでですね。まあ無事に行けるかどうか、1週間の予定ですけど息はアムステルダム経由で、帰りはパリ経由で言ってきます。新聞報道はどこまで正しいか、まあその裏も見れると思いますので。以上です。(3:40:07)

3:41:05

●K.N. 今までちょっと難しい話されたんで、ちょっと私が思ったことを簡単に話していきますと、ちょっと内容的には外れちゃっていたら申し訳ないんですけど、あの相撲の大鵬のお父さんはウクライナ人なんです。お父さんがウクライナ人で、お父さんは別れてウクライナに戻っちゃうんですよ。そんな時に日本の独楽とか、将棋とか、メンコとか、いろんな遊ぶものをもって行くんですね。それでウクライナで流行らせたって言うのが、あります。

3:41:57

●K.S. 私ウクライナに何で行ったかという、大鵬の記念館があるんですね。私の知っている人があの、知ってました、大鵬の記念館があるんですけど。

●K.N. 私の話し終わってからにして貰えますか？

私、アムネスティってみなさん知ってると思うんですけど、その集まり(https://www.amnesty.or.jp/get-involved/event/2024/0611_10337.html?)で、脱北者の話を聞いてきました。アン・ミョン Cholさんが日本に来て話した内容を3つだけ、今脱北者って言うのは韓国には35000人いるそうです。で、北朝鮮ってどういう国かという、インターネットが99.9%は使えないそうです。電磁波みたいなのを張って、外部と遮断されてることで、北朝鮮の国民は外と接触できないになってます。0.1%はどう言うことかという、中国で言うなら共産党員ですかね、それも申請してインターネットを使わないと、外とは会話できないような、だから大変な国だってことを言っていました。(次ページにつづく)

資料⑥ 第7回むのたけじ反戦塾(2024年3月20日)の記録 (8)

それで、みなさん、ほんとかどうかと思ってる話だと思うんですけど、パレードかなんかで、葬式とか、軍事パレードで、国民が泣いたり笑ったりしてるシーンがありますよね、おおげさに。あれはほんとなんですか、って質問した人がいるんですけども、あれはやらせじゃなくて、ほんとらしいです。なぜかという、朝鮮の人は外の人間を全然わからないんですよ、どういう風に生活してるだろうか、報道が入ってこないし、自分からも得ることができないんで、日本で言う天皇みたいな存在らしいんですよ。金日成も、金正日も神様みたいな人間なんでだから恐れ多い感じでああいうような態度をとっちゃうんじゃないかって言っていました。ちょっと長くなったんでこれだけにします。

3:44:52

●K.S. ちょっとすいません。私今のことで、私13年前行ったんですよ。北朝鮮の情報ももれて、だからいま、ゴミを飛ばしているのやってみたいんですけど、私何でも見てやろうという気があって行ったんです。22万円で仲介旅行者が募集してたんで、私申し込んだんですよ。そしたらキャンセルになりましたけどどうします? では一人でも手配して下さいって言ったら結局32万かかって、現地2万かかって34万かかったんですけど、まず空港に着いたらですね、携帯とパスポートを取られましたね。これは帰る時に渡しますって。で、運転手と、ガイドいうんか、二人が* * *で、全部行くところが決まってるですね。全く自由がないんか、夕食終わったらホテルで朝はまだホテルから二人が付いて観光されたんですけど、で私あの時 すっきりしたのは言いたいことを全部言ってやったのですが、毎度の食事には後に食べきれるほど出るんです。私、残すのだから嫌いなんです、餓死者が出てくるっていうのに、何でこんなに安いんですかっていいたら、私たちの国は、食料は余ってます、日本ではどのように報道されてますかって言うんで、これは言わないといけないかなと思って、まず拉致のこと言ったんですよ。言ってもいいですかと言ったら、何でも良いから言えと言うんで、「拉致」はいつ解決してくれるんですかっていいたら、あれは小泉総理が2回来て、もう解決済みだって。で、大韓航空爆破事件を聞いてやったんですよ。あれは日本人のハチヤマンベイ(?)がやったんで関係ない、後は知らない言いましたね。後は知らないだから私も言うかなと思ったけど、それ言い過ぎたらまた、パスポートとられているし、どうなるかわからないので、はいそうですね。米軍の100ドル偽札つくったり* * *したりって、どうなのかと聞いたら、そんなことは無いって。

3:47:46

●K.N. あのちょっと今日のテーマと違うんだけど…

●K.S. だから私は知ってほしいことなんです。

3:48:00

●T.I. あのちょっとね、突然になっちゃって、マイクもりましたけど、北朝鮮のことのこと僕もやってたんで、埼玉市の浦和にいる石垣ですけど、北朝鮮はひどいって言うけど原因は日本ですよ。戦後補償全然やってないんじゃないですか。それから何万人殺してる、それを全然発表しないじゃないですか。そこの話がないのに、北朝鮮はどうのこうのというのは、私は非常に失礼だと思う。そこは抜けてますね。そこは僕はとくにあります。それから今日はものすごく、昨日疲れちゃってたんですけど、皆さんのものすごい知識があったって何が何だかわかんないってそんな感じをしましたが、あの1つだけ言うときますけど、僕はあの教員やってたんですけどね、ドイツが優れてるっていうことで、本当に優れてると僕は思ってたんですよ。戦後保障はドイツの言うてるのは真実、どういうことがあったかという真実、それから若い人のお互いに謝罪して保障するってことですよ。

それから記憶 これは記録にとってきちんと覚えておくとそれから4番目が共生、ともに生きる、これを徹底したんですよ、ドイツは戦後ね、とくにユダヤ人に対してね。僕は本当に感激して飛びついて、そのユダヤの博物館を見たりしたんですよ。だけど今度はがっかりしたんですよ。なぜかという、知ってますか。ドイツはね、イスラエルに武器を輸出したんですよ。それをずっとしてんですよ。メルケルさんが首相になる前からやってたんです。僕は、メルケルさんが首相をやってる間はロシアはウクライナに攻めてこないだろうと思ってたんですよ。メルケルさんはロシアからガスをかっただでしょ、メルケルさんは平和共存を考えているんですね。メルケルさんが辞めてからですよ。プーチンがウクライナに攻め込んだのは、メルケルさん自身も、イスラエルに武器を輸出するってことがいけないってこと言えなかった、やっぱり相当 お金の問題でね、資本の問題でね。あるんで、ドイツが素晴らしいから日本もこのようにしたいなって僕は思ってた。北朝鮮を追い詰めているのは日本政府だと思います。拉致問題も徹底的に利用してるじゃないですか。それで、北朝鮮が攻めてきたら、どうする、どうするってみんな脅かしてるでしょ。Jアラートだってさ、全部マスコミ、ストップさせちゃうじゃないですか。台湾有事の問題もそうですよね。台湾有事は日本有事だってね。ここにも書いてあるけど。台湾は日本の植民地じゃないんですからね。本当にふざけてるよね、安倍さん。こんなバカにしてることはないですよ。中国人、台湾人をバカにしてることはない。麻生がいまだにそうでしょ。台湾に攻めてこい、冗談じゃない。台湾は全く別の国なんだから関係ないじゃない。僕はもっともっと日本人が反省しなきゃいけないなということがまだまだあるんじゃないかと思えます。

集団的自衛権の問題は、たった一人 石川賢司って東大教授がね言ったんですよ。それは安保法制違憲訴訟は、あれはクーデターだって言ったんですよ。僕は許せないのはね、その発言について憲法学者たくさんいるでしょ、そしたら「石川賢司さんはこう言ってる」、弁護士もそうですよ。石川県賢司さんはそう言ってる、ふざけてるんですよ。私もそう思うって言う人は一人もいない。内閣法制局がちゃんと集団的自衛権は憲法違反だからダメだって決めた。それを安倍が閣議決定でひっくり返したんですよ。デコレは、石川健治がすごいって言うのはね、これはね、僕の知ってる弁護士に聞いたけど、クーデターだったら、閣僚をみんな捕まえることができるんですよ。それはね、石川憲司一人だけしか言ってないから、捕まえもしないですよ。安倍は左うちわですよ。全部の、全部って言ったって何千人いるからね、憲法学者なんて。そう言って、弁護士も言えば、それが世論となって検察だって動くんですよ。検察が動けば、閣僚捕まえられるからね。そういうことができない。だけどいま、石川憲司は若くってね、頑張ってますからね、やや期待してます。ほんのちょっとだけ、東大でもたった一人だからね。石川憲司の教え子が出てくれば、なんとか日本も平和でもう少しいられるかな、とまあその程度ですね。非常に彼が言った課題ですね。戦争がいつ起こるか分かりません。僕はアメリカだってハワイ侵略したわけですよ。アメリカなんか、ハワイ侵略してアメリカの属国にしてるじゃないですか。そう言うことは全然言わないでさ、台湾はどうのとか、ふざけてるじゃないですか。そういう状況があるということが言えます。そのぐらいです。ありがとうございました。(3:55:08)

3:55:10

●S.N. えっと狛江から来ました鍋島と申します。みなさんの意見、おっしゃることを聞いてて、今までいろいろ大変勉強させていただきました。きょうのテーマである日本政府に戦争を起こさせないようにするにはどうしたらどうすれば良いかということですけども、やっぱりこうすればいいっていう妙案はおそらくないだろうと思いますね。

(次ページへつづく)

ただここにいらっしゃる方はやっぱり戦争はまずいと思っているのでそのそういう人たちを一人でも増やせばいいのではないかと、いうふうには私は思います。それには、どなたかもおっしゃられたように歴史を勉強するとか、それからそのこの世界の仕組みてきなものです、戦争を起こす仕組み、それがどうなっているとか、そういうことを勉強して、それを人に伝えることができる能力を持つていうことが、おそらく急がば回れじゃないですけど、そういうことが、今、私たちに要求されていることではないかと思えます。ですからもちろん完全の方法でなくていいわけですよ。だから他の方法を否定しないでですね、いろんな方法で地道にやっていくということが答えなのではないかと思いました。以上です。(3:56:54)

司会

私を聞いてたんですけれども時間、はいくらでもあるのですが、ここで、まとめていきたいと思えます、関連のある話で、一言二言言いたいということがありましたら。

3:56:50

●M.T. この会の目標ですが、今回が8回目ですね。それぞれの皆さんお考えを出し合って、楽しみにしてるんですけども。だいたい3ヶ月に1回くらいですよ。今年あと3回くらいですね。来年が敗戦80年ということですね。来年の夏を中心に様々な団体がいろんな企画をするんだらうなと思ってあげるんですけども、ぜひ反戦塾もですね。来年の夏に向けてその講演会でも映画界でもあの複合的なイベントをですね。目標にさせていただいて、ここでそれぞれの意見を出し合うと同時に、反戦塾の成果ですね、出せるようなことを考えていかねばなと思っています。

3:58:48

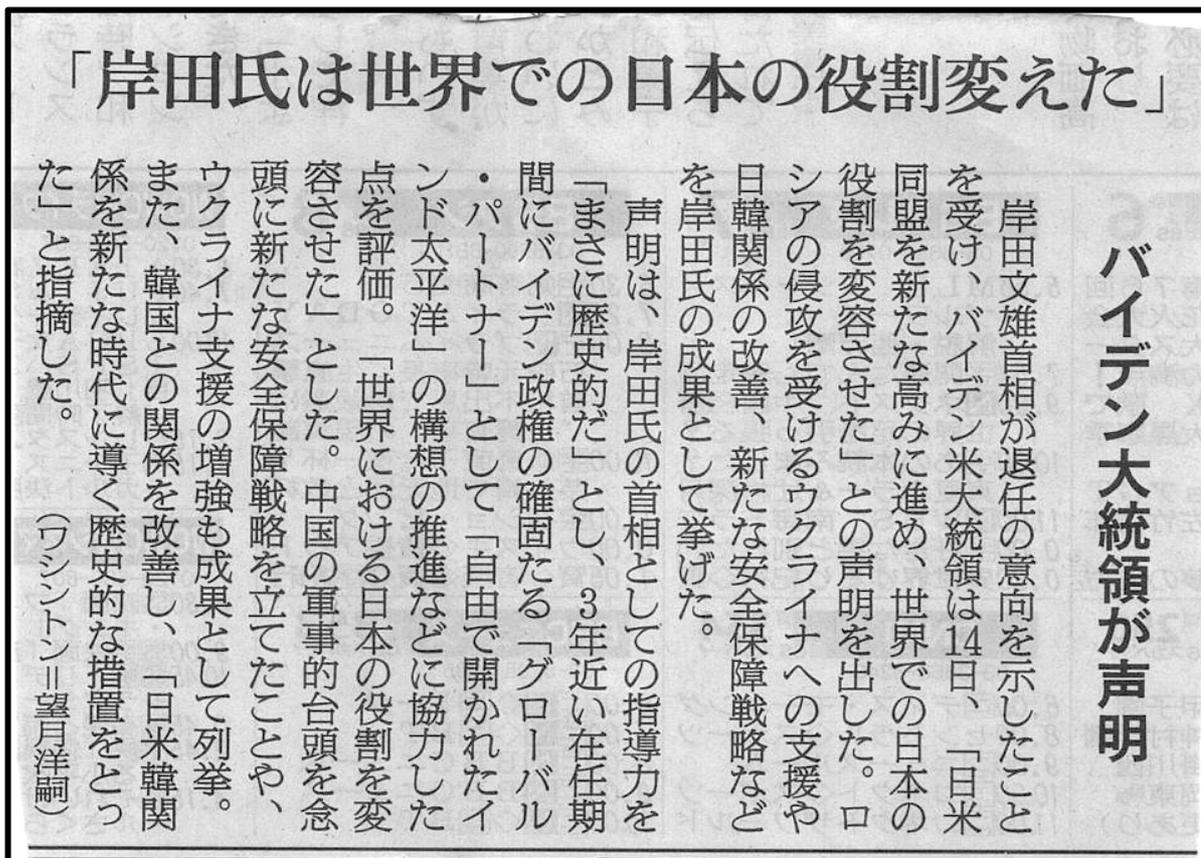
●武野：確かに先ほど帰られた坂巻さんは岩波書店に勤めていた人ですが、その後輩から先日手紙をいただいて、岩波書店も来年戦後80年だから。戦後の総まとめの本を出していきなすと思っていました。

だから、私たちの、反戦塾の成果もそれに乗れたらという思いを持っています。ただ、出版界は厳しくてお金いっぱい持って、ある程度買取をするということがあれば、本は出せますけども、それ以外は本屋さんお企画に乗るといようなことになります。要するに自分たちの主張をまとめたものを出すと厳しいものがあります。要するに本屋さんの都合で書いた本じゃなくて自分たちの主張で出せるかっていう問題はあるんですが、なんとか皆さんお協力を得て、なんとか資料集的なものでなく、一般書として出したいと思っています。3月ぐらまで考えると、12回ぐらになります、まあ10回ぐらでもいいと思えますけど12回で本当まとめたいという思いを持っています。

4:00:56

●S.Y.

それから皆さん大変ご発言頂いてます。もうひとつは、認識の共通ベースって言うのが、私にとっては現在、戦争状況に日本はなっていると、こう考えらるんですよ。だから戦場でないと言うことではない、ミサイルが飛んでないから戦争で無いというのでなく、戦争状況にきちんとコミットしてしまつた以上は、はっきり言って日本は戦争状況にあるんだ、としたがって長崎大学の先生から教わっているんですけど、平和学という学問の体系の中では、もうはるかに日本は、飢餓ですね、その日のごはんも食べられない様な子どもが、何十万といるんですよ。だから子ども食堂なんて言う言葉が流行っているわけ、だから日本はすでに平和的生存権も崩れているという認識こそ我々の認識のベースに据えるべきじゃ無いかと思うのですが、付け加えさせていただきます。よろしくお願ひします。(4:01:58)



↑アメリカ政府から見た岸田首相の「歴史的な役割」はやっぱりそこにあるんだとよくわかって記事を埋め草にしました。(2024年8月15日 朝日新聞)

声明

敷戸弾薬庫への長距離ミサイル保管に反対します！
工事を中止し、対話と外交による平和を！

2023年12月

長距離ミサイル配備は、市民・県民の問題

大分市民の皆さん、大分県民の皆さん！

防衛省は、大分分屯地（敷戸弾薬庫）に大型弾薬庫を増設する工事を11月29日に開始し、数年先には中国など外国を直接攻撃できる長距離ミサイルを保管する計画です。この弾薬庫は住宅地のど真ん中、大分駅の南約5kmにあり、弾薬庫周辺10kmの範囲に大分市の大部分が入ります。ミサイルの陸上輸送や湯布院駐屯地へのミサイル部隊の配備を考えれば、周辺数キロの住民だけの問題ではなく、市民・県民全体に及ぶ大問題です。私たちは、大型弾薬庫の建設及びミサイルの保管計画に改めて反対を表明し、その中止を求めます。

広島型原爆の15分の1相当の弾薬が敷戸に

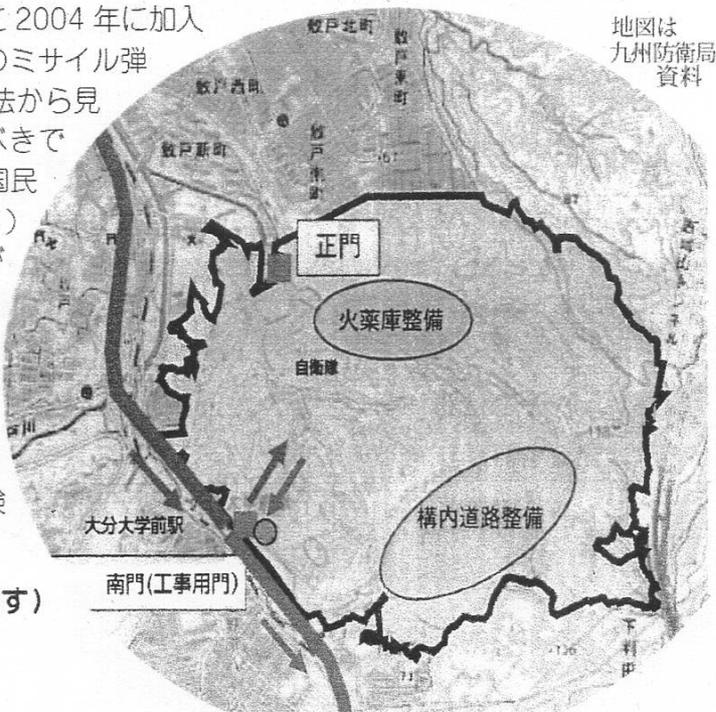
約37年前、防衛庁（当時）は、敷戸弾薬庫にTNT火薬換算千トンの弾薬が33棟の弾薬庫に保管されていることを認めました（1986年4月、衆院安保特別委員会）。千トンの爆薬の破壊力は広島型原爆の15分の1に相当し、千トンをまとめて保管した場合の保安距離（学校や住宅などとの間に確保しなければならない距離）は計算上3千メートルを超え、敷戸弾薬庫の敷地の広さでは全く足りません。数年前には5棟の保安距離不足が明らかとなっています。防衛省は現在の弾薬保管量や保管方式について、ほとんど全て秘密にしていますが、千トンを大きく超えているのではと懸念されます。このような状態の中で、さらに長距離ミサイルを保管すれば、その危険性は想像を絶します。

人口密集地への弾薬庫建設は国際人道法の「軍民分離」原則に反します

戦争の際の民間人被害を小さくするため、国際人道法は、弾薬庫などの軍事目標を人口密集地やその近辺に設けないよう最大限の努力をすることを締約国に求めています（第1追加議定書第58条(b)）。

日本はこの条約に2004年に加入しており、敷戸のミサイル弾薬庫は国際人道法から見ても、建設するべきではありません。国民保護法（2004年）は、同条(a)が求める住民避難に偏っており問題です。大分空港の軍事利用も軍民分離の原則から言って危険です。

（ウラに続きます）



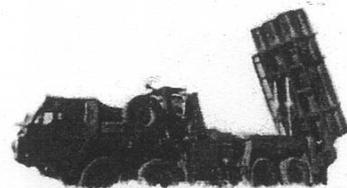
防衛省の対応は無責任 中国脅威論は戦争準備の口実

九州防衛局による説明会（11月2日、敷戸小学校）では、住民側からの「弾薬庫に長距離ミサイルを保管すれば戦争の際に攻撃の標的になって、周辺住民が大きな被害を受けるのではないかと」の問いに対して防衛局は、「火薬庫は安全」と答弁。住民が被害を受けても「補償されない」と述べるだけでした。いわゆる「台湾有事」は、中国の国内問題ですが、この戦争に参戦することも「専守防衛」の枠の中という驚愕の答弁。国の対応は、無責任というほかありません。ちなみに、「台湾有事」については、ミラー・米国統合参謀本部議長が「中国には現時点で（武力統一する）意図も動機もほとんどないし、理由もない」と明言（2021年6月17日 米国上院）しているように、日本が戦争を準備するための口実として言われているのにすぎません。



「抑止力」を強化しても戦争は防げません 南西諸島住民の長期避難・移住計画

防衛局は「今回の措置は抑止力を高めるため」と言っています。抑止力とは武力による威嚇です。武力による威嚇は、武力による威嚇や武力の行使の放棄を謳った憲法に対する違反であり、また、武力で威嚇しても戦争は防げません。国は沖縄など南西諸島の住民を欺いて、攻撃ミサイル基地や弾薬庫の建設を進めてきました。その結果が、全住民を九州などに避難させる計画ですが、避難は長期となり移住となる懸念が語られています。抑止力（威嚇力）を高めても戦争は防げない証明です。敷戸弾薬庫へのミサイル保管は、政府が進めている南西諸島の軍事要塞化や湯布院へのミサイル連隊の配備など戦争準備そのものであり、このために巨額の軍事費を投じようとしています。



県・市は市民の安全を守るために最大限の努力を

「防衛」は国の専権事項ではありません。県・市は、自主性・自立性をもって市民の安心・安全を図る努力をして下さい。また政府は軍事費倍増、年11～12兆円という軍事費を計画しています。消費税年額22～23兆円の半分が軍事費に消えます。食事も満足に取れない、必需品も買えない子どもが沢山いるのが現在の日本です。平和と生活のための政治を行なって下さい。

※ 市民の会の活動を支援頂くため、
入会やご寄付をお願いいたします。
個人年会費は千円、団体年会費は3千円です。
→ ゆうちょ振込口座：01700-8-173864
大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会

大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会

【共同代表】 ・岡村正淳（弁護士）・賀来進（大分県保険医協会副会長） ・神戸輝夫（大分大学名誉教授） ・二宮孝富（安保法制違憲訴訟大分原告団共同代表） ・野中高美（大分市平和運動センター事務局長） ・平岩純子（元県議） ・藤井富生（大分市高江南在住） ・松本文六（医師） ・宮崎優子（光吉台在住） ・宮成昭裕（元敷戸北町自治会長）

連絡先：080-1547-1323（気賀沢）



論考

沖縄問題を考える

土田 誠

(つちだ まこと・70歳)

沖縄でまた、米兵による少女暴行事件が起きた。昨年12月に発生した事件だが、今年の3月27日に那覇地方検察庁が起訴した。自公連立の岸田文雄政権は、この事実を沖縄県に知らせず、沖縄県議会議員選挙と沖縄全戦没者追悼式が終わった6月25日になって通知したという。岸田政権の悪意ある、恥知らずな対応を非難せざるを得ない。

そして、6月16日に投開票された沖縄県議会議員選挙は、投票率が過去最低を記録し、玉城デニー知事の県政与党が24議席から20議席に後退した。自民党は前回の18議席から20議席に伸ばし、県政野党としては28議席を獲得する結果となった。

県政与党の敗因としては、一部の

選挙区で候補者調整の失敗(県政与党候補の共倒れ)が挙げられている。また、自民党の勝因としては、自民党が逆風の中で党派色を薄めた選挙戦術を展開したこと、辺野古隠しで争点をずらし、中央直結による経済振興を訴えた政策が功を奏したと考えられる。岸田政権は、沖縄県への振興一括交付金について県が求める1000億円台を4年連続で割り込むなど、辺野古新基地建設に反対する玉城知事に対する嫌がらせを行なっているように見える。

貧困と格差の拡大が全国的に広がっているが、沖縄県は特に影響が大きく、その貧困問題は構造的な要因が大きいと考える。観光産業に軸を置く沖縄県経済は第三次産業(サー

ビス産業)偏重となり、都道府県別で最下位となる低年収(2023年の根拠であり、非正規雇用(22年の割合は33・4%、全国平均は31・6%)増加の温床となっている。

県経済を発展させるには、自民党政府との中央直結による「補助金経済(植民地経済)」ではなく、観光を軸にしつつ新規産業を呼び込む構造改革が求められる。問題は沖縄島の中・南部の一等地が米軍基地に占拠されている実態にあり、米軍基地が沖縄県の経済構造改革を阻害していることである。

私は、沖縄と連帯する市民として次のような提案をしたい。

1. 沖縄県を「琉球県」に変更する。琉球県への名称変更とともに、先住

民・先住民としての自治権・自己決定権の明確化を図り、県民の一体性(アイデンティティ)を取り戻す。

2. 県経済構造の改革と、「復帰以来の貧困の解消」を実現するために、振興費の増額と米軍基地の削減を政府に要求する。

3. 市民は、沖縄の市民と連帯して、沖縄島、先島諸島からの自衛隊基地の撤退・縮小を要求し、ミサイル要塞化を拒否する。

4. 市民は、「抑止力強化論」を排し、「自衛隊の軍縮・真の専守防衛」を要求し、対話と外交による東アジアの平和を目指す。

5. 市民は、「日米安保条約の見直し」と地位協定の改正を政府に要求し、独立国としての主権回復を目指す。

資料⑦ 「むのたけじ反戦塾」のこれまで

2022年3月21日（休）
むのたけじ 地域・民衆ジャーナリズム賞 受賞の集いプレ・イベント「映像とお話の会」
■参考映像『むのたけじ100歳の不屈 伝統のジャーナリスト次世代への伝言』
■お話：今に生きる『たいまつ』の姿勢と思想 佐高信さん

2022年8月21日（日）
戦争はいらぬ 戦争をやらぬ世へ—むのたけじと考える憲法
● 番組上映『まだ101歳むのたけじ—戦争を殺す日まで』
● 「いま戦争と改憲の危機に私達は何をどのように闘うか」 佐高信さん 中垣克久さん 愛敬浩二さん 阿部美砂さん

2022年10月10日（休）
「むのたけじ反戦塾」設立準備会
● 『笑う101歳×2 笹本恒子 むのたけじ』上映
● 河邑厚徳 監督のお話

2022年12月18日（日）
第1回 むのたけじ反戦塾
① むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』
② 参考映像『NHKスペシャル「日本人はなぜ戦争に向かったのか」

2023年3月12日（日）
第2回 むのたけじ反戦塾
① 自己紹介（それぞれの考えを出し合う）
② むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』第1章「現在を刺す七〇〇万年の歩み」から
③ 参考映像 『100歳、叫ぶ 元従軍記者の戦争反対』

2023年7月6日（木）
第3回 むのたけじ反戦塾
① 自己紹介（私の考え）+むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』第2章「農耕の中からもゆえ戦争が」前半
② 参考映像『100年インタビュー ジャーナリスト むのたけじ』前半

2023年8月26日（土）
第4回 むのたけじ反戦塾
① 参考映像『100年インタビュー ジャーナリスト むのたけじ』後半
② むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』
③ それぞれが今考えていることの出し合い・話しあい

2023年11月23日（木・祝）
第5回 むのたけじ反戦塾
① 参考映像「むのたけじ100歳のつどい 『ジャーナリズム・メディアの再生～戦後70年・未来への課題』（66分）2015年4月制作
② 参加者、それぞれが今考えていること、問題としていることの出し合い・話し合い
③ むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』第三章「人類の余命は四〇億年か、四〇年か」から
④ 「むのたけじ反戦塾」の新しい展開をめざして

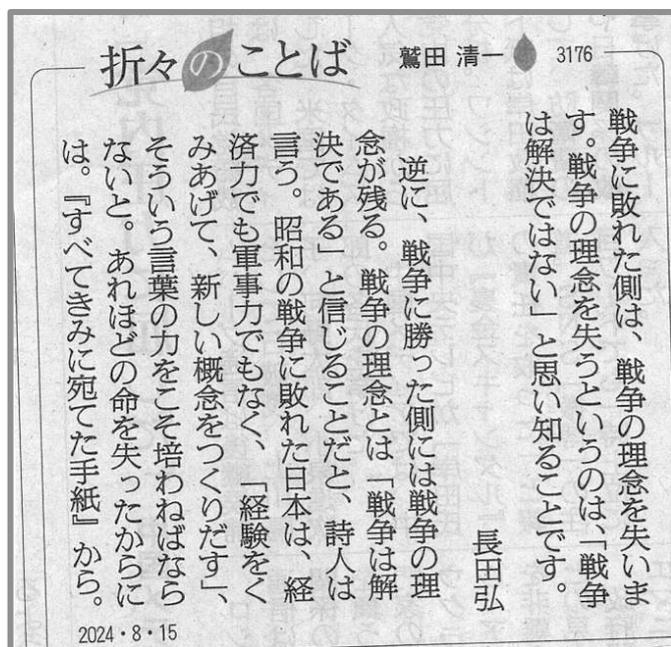
2024年1月20日（土）
第6回 むのたけじ反戦塾
① 参考上映：秋田県立秋田明徳館高等学校PTA主催特別企画「99歳のジャーナリストむのたけじ先生講演会『若い人達に伝えたいこと』（108分）講演：2014年3月10日
② むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』第4章「みんなの課題にみんなで取り組む」前半 P.123~143
③ 参加者、それぞれが今考えていること、問題としていることの出し合い・話し合う

2024年3月20日（水・休）
第7回 むのたけじ反戦塾
① 参考上映：秋田県立秋田明徳館高等学校PTA主催特別企画「99歳のジャーナリストむのたけじ先生講演会『若い人達に伝えたいこと』（108分）講演：2014年3月10日
② 話し合いテーマ「自衛隊についてみんなで考える」
③ むのたけじ著『戦争いらぬ やらぬ世へ』「自衛隊派遣の是非について」後半 P.144~155
④ むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』第4章「みんなの課題にみんなで取り組む」後半 P.144~155
⑤ 参加者、それぞれが今考えていること、問題としていることの出し合い・話し合う

2024年6月15日（土）
第8回 むのたけじ反戦塾
① 参考上映：「むのたけじさんを囲む会」（中帰連平和記念館2014年6月11日）
② むのたけじ著『希望は絶望のど真ん中に』結章「足元から世界を耕す」前半P.159~177
③ 参加者、それぞれが今考えていること、問題としていることの出し合い・話し合い。今回は「日本政府に戦争を起こさせないようにするにはどうすればよいか？」についてみんなで考える

第10回「むのたけじ反戦塾」は11月の開催です。

日時：2024年11月
（9月1日には予約が決まります）
会場：文京区民センター（予定）



輩は解釈する。死について、一般の常識とは違う感じ方、考え方を私は若い時から持っていた。例えば死期についてですが、自分の死ぬ時が来れば、たぶん半年ほど前に、それを予感して予知すると思っている。そのことを確認したのは、二六歳の時だ。

私は朝日新聞東京本社で働いていた。職場の同僚の神谷君は神奈川県国府津町(現小田原市国府津)の寺の住職でもあって、僧職の仕事は他にゆだねているそうだが、寺周辺の風景が自慢で「見に来いよ、見れば寿命が延びるよ」と友だちにすすめていた。それで新聞の休刊日に数人で出かけた。なるほど一帯の風景は見事でした。寺も立派で、その内部を案内しながら「うちの父は宗門では全国でナンバー1の地位にいたが、三か月前に死んだ。半年前から何月何日の昼に死ぬと予言めたことを言っていた。全くその通りになった。奇跡みたいだな」と言った。それを聞いて私は黙っていたが、神谷君が奇跡という言葉を二度、三度と繰り返すのを聞いたら、私のハートの虫が「そんな

ことは奇跡なんかではないよ、当たり前のことだよ」と反発した。それがきっかけで、このおれだつて死期が来ればおそらく半年前にそれを予感して予知するだろうと確信みたいなものを持つようになった。理由は簡単です。いのちは誰にとつてもかけがえないもの、最も大切な自分のものだから、その終末を半年ほど前に知覚するのは当然だという理屈です。

人の死に関連して、私が最も深く首をかしげるのは、すべて人の死を何よりの不幸として悲しむ反応です。生死一貫です。生まれると死ぬ、誕生と死亡とは別個ではない。始まりと終わりです。両者は接合しています。始まりの誕生は一族みんなで祝い喜ぶのに、終わりはなにゆえに正反対の光景になるのか。悲しむ人々は、死そのものよりも死に伴う別離を悲しんでいるのではないか。まして死者たちはみな悲しんでいるわけではなく、中には「これでやつと休める」と喜んでる人だっていたかも知れない。それをみな十把一絡げにして線香のにおいで包む有様は、どの角度から見ても、人間を本気で大切にしているとは見えない。廃品処理の一括方式と、いろんなことで共通していませんか。人間とは何ぞや、そこを人間たちみんなで土台から考え直して、本気になって人間そのものをお互いに大切にしようことをやり始めないといけないのではないかと、以上のようなことを考えるものですから、死期を予感したら、自分の望むどこそこで自分の望む状態で死ぬように準備しようと思っただけですが、それは自分一個のことだ。他人に言えることは一つ、微笑しながら死のうと思っただけです。それで数年前から、夜に布団の上にあぐらをかいて、微笑しながら絶息する訓練をしているのですが、それが全くうまくいかない。微笑と絶息をうまく結合させようと、あれこれ試みたが、まだ一度もうまくいかない。そこで思うのですが、人はみな数万个の似たり寄つたりの遺伝子をもって生まれてくるのですが、微笑と死亡を両立させるのに役に立つ遺伝子は一個もないのではないかと。つまり人類の中に、これまでに微笑しながら死んだ人はいなかったのであるまいか。なんて考えると、(微笑死)への願いが一段と強まる。

最近、そのための訓練をやめた。みんな力を合わせて、戦争をなくして貧苦と病苦をも克服できる方向へ、確かに世の中が動き始めたと感じられる状態になれば、大概の人はほほえんで死ぬはずだ。その状態を現実作り上げるために力の限り努力し続けることですね。……オレは何たるバカタレだ。平均寿命の五割増しも生きてきたのに、人の笑いは作るものではなく、おのずと生まれるものであることに気がつかないなんて。

ては一国の首都に当たる社会構造を実現していた。そのエネルギーが北方の人々の伝統となつて、ひどい受難を幾度となく乗り越えさせて来た。

そして二〇一一年三月一日には、かつてない天災がひどい人災と共に襲つてきて、一万五〇〇〇人以上のいのちが奪われてしまった。悲報は四方に飛び、そしてすぐに八方から救いの手、励ましの手が波のように差し伸べられてきた。その波は新しい表情と熱気を持っている。受難の人たちは、その熱気に温められつつ、時間を要してもきつと立ち直つて立ち上がるに違いない。と同時に、日本列島の一隅に発生した出来事と人々の動きが引き金となつて、人々の目ざめが誘発されているのであるまいか。人々の連帯

「開墾」という二字を書いたら、それに刺激されて、日ごろの疑念がうずいた。「ボーイズ・ビー・アンビシャス」です。「青年よ、大志をいだけ」と普通翻訳されているが、人の志に大判と小判の区別をつけてよいのか。大きな志を実行して大いに儲けなさい、なんていうすすめが青年たちに与えられるわけがない。「若者たちよ、いつも開拓だましいを燃やして頑張りなさいよ」というのがクラーク博士の真意だった、とわが

* 20ページから18ページに遡る形で、後ろから左開き
上段右上から左上、下段へ進む形でお読み下さい。

結章 足元から世界を耕す

山で始まったら、東北各地が呼応し、全国へ飛び火した。同様の光景は、昭和期の戦争体制の始まりにも見られた。「欠食児童」の続出する社会情勢の中で、秋田県の小学校教師たちは「生活綴り方」の運動で子らの心の成長と健康を守ろうとした。世の有様を生活者の目でまっすぐに見つめて、思いを生活者の言葉で書く、そういう能力を養い高めようとする動きだった。文部省はすばらしい教育実践と誉めたが、内務省の特別高等警察課は「左翼運動」だと弾圧に着手した。そのため苦しめられた人々もいたが、それほどひどくならないで止まったのは、この運動が東北各地に根を張りだして、立派な教育実績を作っていたからだだった。その記録集の一つが戦後の山形の『山びこ学校』無着成恭編、岩波文庫でした。

戦後の東北地方では、政治運動、青年運動、婦人運動から平和運動、教育運動、文化運動などは、みな東北地方という視点から組織されるのが普通だった。特に岩手大学の農学部長だった石川武男氏が導いた農民大学の運動は東北各地の農業協同組合の思想と経営に筋金を入れて、全国に波及した。

ここで私が言いたいのは、東北の民衆の横結びの連帯は徳川時代から行われていたこ

183

結章 足元から世界を耕す

石町に至る距離、そこを往復するのに要する時間です。男性が夜這いに行く時は、夜食を家族と一緒に済ませて出発し、翌朝六時には戻って畑か田にいる父親と一緒に働かななくてはいけなかったそうです。地図を見ると、二つの土地の道のりは、とても一〇時間では往復できそうにない。そこで雫石農協の学習会に参加したとき、例の夜這いの件を話題にしたら「ああ、それは昔からやっているよ、あっちとこっちとの嫁取り婚取りは多いよ」とあっさりしたものでした。うんと遠くの地まで夜の山道を越えてお互いに適合する相手求め合ったのは、明らかに近親婚を避ける知恵が働いていたのでしょう。しかも幕藩体制でタテ割りにされた民衆が、それに抗して自分たちのいのちと暮らしを守るために世紀の壁を越えて実践してきたのでしょ。一九七〇年代のころは「奥羽山脈に風穴をあける運動」が農協青年部員や若い社会党員たちで進められた。

ところが八〇年代になって、中央の大資本によるタテ支配網からまれて、東北地方が自分を見失いそうな危険にさらされたこともあった。しかし北方の人と土は、大昔から受難のたびに不死鳥の力を発揮して来た。先ごろ奈良朝廷の一三〇〇年前の発足を祝う行事があったけれど、北の三内丸山コミュニティはすでに五〇〇〇年前に当時とし

185

の実に簡単な言葉のやりとりの中に、もし文字にしたら一冊の単行本になりそうな東北物語が込められている。若い方たちに参考になると思うので、中身を述べます。

一九四八年二月に私が秋田県の農村地帯で小新聞を発行した時、旧制中学校時代の恩師だった石坂洋次郎さんが、こちらから頼まないのに創刊号に原稿を寄せて下さったが、その中身は「東北の人びとへ」の語りかけだった。『週刊いままつ』自体が何か地域の問題を取り上げると、東北は……、トウホクは……でした。なぜか？

薩摩・長州の連合政府の下で始まった明治以降の歩みで、東北地方はいつも国内植民地として扱われた。「白河以北は一山百文」とは、東北地方の人間には一人何両、何十両という値段がつかないで、十把一絡げ百文くらいだという人間蔑視のセリフで、東北人に浴びせられた。昭和期になってからも、東北の若者が東京に就職したら、周囲から東北訛りを冷笑され続けて自殺する出来事が「またか」と受けとめられるほど起こった。

東北の人間であるがゆえに警めさせられる同じ思いが、東北の民衆を結び合わせた。何か社会に対して行動を起こす時には、東北全体の連合運動になった。その記録は一杯あるが、例えば明治元年に明治政府の重い地租に反対する農民の百姓一揆が福島県の郡

182

* 20ページから18ページに遡る形で、後ろから左開き
上段右上から左上、下段へ進む形でお読み下さい。

とを証言した民俗学者のエピソードです。一九四六年の初夏に、柳田国男氏が北海道から東京へ帰る途中に秋田県角館町(現仙北市角館町)に立ち寄った。かねてから柳田氏に師事する人たちが集まっていた。会合が終わったら、柳田氏は県境の仙岩峠を徒歩で越えて盛岡に行きたいと言い出した。柳田氏は七十一歳だった。弟子たちは「とんでもありません、もしものがあたら大変です。お年を考えて下さい」と止めにかかった。すると柳田氏は本気で怒った口調で「君たちは民俗学をやっているながら、生保内(現仙北市田沢湖生保内)や角館の男たちが南部領の雫石まで徳川時代から夜這いに行っていたことを知らないのか。私はまだオトコだ」と言ったそうです。結局は、弟子たちの説得でオトコの歩きは止めたそうです。

その場にいた町立図書館長からこの話を聞いて、私はある学習会で披露した。すると、波紋が広がって反響は大変でした。柳田の民俗学の欠点は、部落差別とセックスの問題に全く言及していないことだ。その柳田先生が自分のことでセックスの言葉を口にしたのは初めてのことだ、と全国の弟子たちが騒いだそうです。

私が問題にするのは、秋田県仙北郡(当時)の東端部から奥羽山脈を越えて岩手県の雫

184

結章 足元から世界を耕す

そのころ家族の悲しい出来事が全国のあちこちで発生し、肉親の結びつきが切実に問
い直されていた。私も家族の一員としての自分の有様を反省させられ、赤面することが
多かった。特に子どもとの関係では、二つのことで全く間違っていた。
私は六人の子の父となった。三歳の長女を戦時中に疫病で死なせてしまったが、いま
長男は七三歳で、次に三人の娘が続き、次男は五八歳で健在だ。この五人の子らに対し
て、名をサンづけで呼んだことは一度もなく過ごしてきた。人間に対して何という無礼
な態度であったことよ。子らは二〇歳を過ぎたら父母を「おやじ」「おふくろ」なんて
呼ぶかも知れないが、ものを言い始めた当初から青年になるまでは、自分の両親を、お
とうさん、おかあさんと呼ぶ。としたら、父も母もわが子を「太郎サン」「花子サン」
とサンづけで呼ぶのが当然の礼儀ですね。それを、私は長男が生まれてからこのかた
七三年も省略してきた。呼び捨てにすることで、子に対する親の愛情がそれだけナマ
に伝わると考えて……。何という無礼な思い上がりであることよ。人間の人間として
の重さは、年齢によって軽重や大小もあるわけではない。でも強いて順序をつけるとし
たら、もちろん年少の方が先にくる。幼があるから少が成立し、少があるから青に進
むのだから。

も一つ、父親としての私の失格は、私の仕事と思想について、子らに対し自分から語
ることはほとんどしないで来たことだ。「子らはそれぞれ自分の進みたい方へ進めばよ
い。親のあとを継ぐなんて全く必要ないし、親の影響なんか受けない方がよい」と私が
考えたからです。「何という思い上がった独断であったことよ。子らが親の影響を受け
ようが受けまいが、あとを継ごうが継ぐまいが、すべて子ら自身の自由な選択だ。子ら
のために考えたつもりで、私は子らに制約を加えたとは、何と愚かなおやじよ」と反省
した。

私自身が自分の父そして母との思い出で、最も強いものは何か。鉄之助という父が、
私が三歳のころ、冬のうんと寒い朝に「おれの背中に入れ」といって私を素肌の背に負
い、その上にとてらを着て朝仕事を続けた。その時の私の全身の何とあったかなくて楽し
かったことよ。ユナカという名の母親は、気性の強い所があつて、甘い思い出はない。
母のおっぱいの匂いは全く思い出せない。けれど、六歳のころ川べりに遊びに行つて、
瀬戸の破片で足を傷つけて家に帰ったら、母は私の肩をピシヤリときつく叩いて「悪い

179

結章 足元から世界を耕す

「開拓だまし」を開拓しよう
さつきのテレビニュースでも、日本とは地球の反対側のブエノス・アイレス市で有名
な音楽家たちがコンサートを催して収益の一〇〇万円を日本大使館に委託した、と伝え
た。東北震災と原子炉事故への救援の手はすごいですね。日本じゅうはもとより、世
界の一七〇か国から差しのべて来たそうですね。東北地方と言えば青森、岩手、秋田、
山形、宮城、福島、福島の六県で全国四七都道府県の(6+1+1)一三パーセントだ。この範囲
に対して世界じゅうから温かい手が差しのべられてきたのは、なぜだ。日本政府が力を
入れて来た国際協力の広さに比例しているのか。東北と言えば、貧困と冷害で知られて
来たから、かわいそうな者たちへの同情か。いや、いや、そんなことを考えてはいけな
い……と首を横に振つたら、三日前のことを思い出した。

旧友に馴れ合った。山形県の農民で、確か八三歳だ。以前の学習仲間だ。あれこ
れ近況を知らせ合つたら、上りと下りに別れて電車に乗る時刻が来た。彼と私はがっ
り握手した。彼は「東北はどこへ行ったのかしら、行方不明みたいだな」と言い、私
は「うーん」と応じるだけで、半分ほど手を握りしめ合つたあとで別れた。老人二人

181

結章 足元から世界を耕す

子だぞ、自分の体を粗末にするなんて」と言つてから手当てをしてくれた。
父の素肌に、母の素肌にじかに触れた記憶が、親からの何よりのもらい物ですね。そ
の温かさを思い出しながら、幼い世代を私たち世の大人は本気で真剣に考えなくては
いけない。子育てマネーの支給なんかでごまかしてはダメだぞ、……そんなことを考
えた私の所へ、これまでまったく接触のなかった秋田県保育協会から、「来る六月三日
に、全県の保育園の関係者三五〇人ほどが集まって『第三九回秋田県保育研究会』を
催します。ついては、あなたに一時半の記念講演をお願いします」という依頼が来た。
私は「保育の土台」という題で話をすると返事した。戦後の私は、戦争を全く消滅させ
た世の中を作るには、教育と農業をまっとうに大切にすることを発展させねばならぬと
小・中・高校や大学などでは幾度となく講演したが、保育について意見を述べるのは、
満九六歳になつての処女体験になる。保育児といえはゼロ歳から六歳までの年齢ですが、
その人たちのために九〇も年上の私が何を語るか、何を語つて役立つことができるか、
こいつは見もの聞きものだなと当の私が今から胸をわくわくさせている。

178

* 20ページから18ページに遡る形で、後ろから左開き
上段右から左上、下段へ進む形でお読み下さい。